

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	NPO入門	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小阪 亘	1年	ptt797@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本授業のテーマは「アクション」。NPOのスタッフやリーダーとして実際に活動している人を招き、沖縄の社会課題解決に向けて活動する現場について学ぶ。事例実践者とともに社会課題解決に向けて議論と提案をする。また、NPOについての理解を深めるためにレクチャーとワークを行いながら社会課題に気づき、アクションを起こす力を育むことを目的とする。	メッセージ この講義をきっかけに自ら社会にアクションを起こせる人になってほしいと思っています。まずは一歩踏み出しませんか。
	到達目標 ・NPOについて「知る」「考える」「動く」初歩的な知識を身に付けることができる。 ・グループで対話（小グループ、全体）する力を身に付け、社会課題について考える力をつける事ができる。 ・自ら身近な社会課題について調べ、解決に向けての計画を立て、アクションを起こす。一連のサイクルをみにつけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 自己紹介（取り組む活動紹介）	レジュメの復習
	2	対話とグランドルール	レジュメの復習
	3	知る・NPO活動と社会での役割	レジュメの復習
	4	知る・日本のNPO史とNPO法	レジュメの復習
	5	考える1・日本/沖縄の社会課題を考える	レジュメの復習
	6	事例1 学生NPO	レジュメの復習
	7	事例2 子ども分野などのNPO	レジュメの復習
	8	事例3 環境・社会教育などのNPO	レジュメの復習
9	事例4 社会でチャレンジ	レジュメの復習	
10	知る・社会を変える仕組みをつくる	レジュメの復習	
11	考える2・APブラッシュアップワーク	レジュメの復習	
12	NPOの資金源/ボランティア/寄付	レジュメの復習	
13	事例5 福祉分野などのNPO	レジュメの復習	
14	パートナー/企業CSR/行政協働	レジュメの復習	
15	それぞれのone action（まとめ、ふりかえり）	レジュメの復習	
16	最終講義	レジュメの復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。毎回プリントを配布します。 おすすめ図書は講義中に紹介 澤村明他著「はじめてのNPO論」（有斐閣 2017年） 中野民夫・堀公俊著「対話する力」（日本経済新聞社 2009年） マーク・J・エプスタイン他著「社会的インパクトとは何か」（英治出版 2015年）		
	学びの手立て ・事例発表のテーマやNPOについては、その時の状況によって変更する場合がある。 ・One Actionに向けて、自分で課題を設定し、取り組むそのプロセスで調べ、体験を通じて学習に活かす		
	評価 ・課題の発表（40%） ・期末レポート（テーマ：One Action）（30%） ・授業参加度（30%）（ミニレポートの提出、議論への参加度、課題のグループ発表など）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・「環境」「福祉」「まちづくり」など、各分野の専門性を深め社会課題がなんであるかを分析する。 ・NPOという組織が継続して社会課題を解決するための組織として存在するためのマネジメントについて学ぶ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	観光入門	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	1年	i.sanjon@okiu.ac.jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は観光学に関する基礎知識や基本仕組みなど、観光学の基礎理論を学ぶことで、観光が人間社会に与える様々な影響とともに沖縄社会においての意義について理解する。	沖縄社会において、観光は何より密接な関係があります。我々は日々、多様な観光客に出会っています。本講義の内容は日常生活の中で、我々が経験している多様な観光事例を挙げながら、講義を分かりやすく進めます。
到達目標	1. 観光に関する基礎用語から基本理論まで理解できるように学習する。 2. 多様なケースを通じて学習することで多様な観光産業の特徴について理解できるようにする。 3. 沖縄社会において、観光産業の意義や今後の課題など、大学1年生としての教養知識を身につけるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーション資料を読むこと
	2	観光と観光学	テキストを読むこと
	3	観光と行動	テキストを読むこと
	4	観光情報と観光情報産業	テキストを読むこと
	5	観光と交通	テキストを読むこと
	6	観光地と観光資源	沖縄観光資源について調査
	7	観光と環境	沖縄自然と観光開発との関係
8	中間テスト	個別学習	
9	観光と文化	テキストを読むこと	
10	観光施設	沖縄観光施設について調査	
11	観光と経済	テキストを読むこと	
12	観光消費	沖縄観光統計について調査	
13	観光と地域社会	テキストを読むこと	
14	観光産業と投資	テキストを読むこと	
15	学習内容のまとめ	個別学習	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	1. テキスト：岡本伸之[編]『観光学入門。ポスト・マス・ツーリズムの観光学』有斐閣アルマ、2015年。 *テキストのほかに、適宜プリント資料を配布します。		
学びの手立て	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. テキストを中心として学習し、積極的に講義に参加してください。		
評価	1. 出席・受講態度：出席チェックは行いません。ただし、授業中のディスカッションに参加した受講生には加算店があります。(最大10点) 2. 中間テスト40%(場合によってレポートに振替) 3. 期末テスト60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：グローバル観光ビジネスや観光マーケティング他観光と関連した諸科目。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅰ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	教育学という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心がより深いものになることを期待する。	教師になる/ならないにかかわらず、ひろく教育に関心がある学生の受講を歓迎する。

到達目標	教育をめぐる諸事象にたいして、学問的関心と自分なりの意見をもてるようになる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内容の復習
	2	学力と教育（1）－「学力低下」問題①	授業内容の復習
	3	学力と教育（2）－「学力低下」問題②	授業内容の復習
	4	発達と教育（1）－野生児の記録①	授業内容の復習
	5	発達と教育（2）－野生児の記録②	授業内容の復習
	6	特色ある教育の思想と実践（1）－シュタイナー教育①	授業内容の復習
	7	特色ある教育の思想と実践（2）－シュタイナー教育②	授業内容の復習
	8	生命と教育（1）－優生学と教育①	授業内容の復習
	9	生命と教育（2）－優生学と教育②	授業内容の復習
	10	人権と教育（1）－差別と教育①	授業内容の復習
	11	人権と教育（2）－差別と教育②	授業内容の復習
	12	ジェンダーと教育（1）	授業内容の復習
	13	ジェンダーと教育（2）	授業内容の復習
14	平和と教育（1）－沖縄戦と教育①	授業内容の復習	
15	平和と教育（2）－沖縄戦と教育②	授業内容の復習	
16	期末試験	試験のふりかえり	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	特定のテキストは使用しない。レジメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。毎回、授業終盤にリアクション・ペーパーを課す（この提出をもって出席とする）。なお、数名分を次の授業時に紹介する。五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。		
	評価		
	レポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育学Ⅱ
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅰ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教育学という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心がより深いものになることを期待する。</p>	<p>教師になる/ならないにかかわらず、ひろく教育に関心がある学生の受講を歓迎する。</p>

到達目標	教育をめぐる諸事象にたいして、学問的関心と自分なりの意見をもてるようになる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業内容の復習
	2	学力と教育（1）－「学力低下」問題①	授業内容の復習
	3	学力と教育（2）－「学力低下」問題②	授業内容の復習
	4	発達と教育（1）－野生児の記録①	授業内容の復習
	5	発達と教育（2）－野生児の記録②	授業内容の復習
	6	特色ある教育の思想と実践（1）－シュタイナー教育①	授業内容の復習
	7	特色ある教育の思想と実践（2）－シュタイナー教育②	授業内容の復習
	8	生命と教育（1）－優生学と教育①	授業内容の復習
	9	生命と教育（2）－優生学と教育②	授業内容の復習
	10	人権と教育（1）－差別と教育①	授業内容の復習
	11	人権と教育（2）－差別と教育②	授業内容の復習
	12	ジェンダーと教育（1）	授業内容の復習
	13	ジェンダーと教育（2）	授業内容の復習
14	平和と教育（1）－沖縄戦と教育①	授業内容の復習	
15	平和と教育（2）－沖縄戦と教育②	授業内容の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など	特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。	
学びの手立て	無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。毎回、授業終盤にリアクション・ペーパーを課す（この提出をもって出席とする）。なお、数名分を次の授業時に紹介する。五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。		
評価	レポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育学Ⅱ
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅱ	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。	メッセージ 教師になる/ならないにかかわらず、ひろく教育に関心がある学生の受講を歓迎する。履修前にTeamsの使用法を学んでおくこと。
	到達目標 教育をめぐる諸事象にたいして、学問的関心と自分なりの意見をもてるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) イントロダクション	授業内容の復習
	2	(対) 子ども理解について(1)ー臨床心理学の知見①	授業内容の復習
	3	(特) 子ども理解について(2)ー臨床心理学の知見②	授業内容の復習
	4	(特) 教師と教育(1)ー今日の教師をとりまく社会的状況①	授業内容の復習
	5	(特) 教師と教育(2)ー今日の教師をとりまく社会的状況②	授業内容の復習
	6	(特) 教師と教育(3)ー「教師ー生徒」関係の課題	授業内容の復習
	7	(特) 性と教育(1)ー性教育の現状	授業内容の復習
	8	(特) 性と教育(2)ー性教育の歴史	授業内容の復習
	9	(特) 性と教育(3)ー性と人間発達の理論	授業内容の復習
	10	(特) 歴史と教育(1)ー歴史教科書問題を考える①	授業内容の復習
	11	(特) 歴史と教育(2)ー歴史教科書問題を考える②	授業内容の復習
	12	(特) 教育の現代的課題(1)ーモンスター・ペアレントについて	授業内容の復習
	13	(特) 教育の現代的課題(2)ー適応障害について①	授業内容の復習
	14	(特) 教育の現代的課題(3)ー適応障害について②	授業内容の復習
15	(特) いのちの授業について	授業内容の復習	
16	(特) 期末試験	試験の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。		
	学びの手立て 特例授業においてはTeamsを使用し、オンライン授業と小レポートを併用する。 無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 毎回、リアクション・ペーパーを課す。なお、数名分を次の授業時に紹介する。 五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。		
	評価 期末試験の結果によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育学Ⅰ
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。	メッセージ 教師になる/ならないにかかわらず、ひろく教育に関心がある学生の受講を歓迎する。履修前にTeamsの使用法を学んでおくこと。
	到達目標 教育をめぐる諸事象にたいして、学問的関心と自分なりの意見をもてるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) イントロダクション	授業内容の復習
	2	(対) 子ども理解について(1)ー臨床心理学の知見①	授業内容の復習
	3	(特) 子ども理解について(2)ー臨床心理学の知見②	授業内容の復習
	4	(特) 教師と教育(1)ー今日の教師をとりまく社会的状況①	授業内容の復習
	5	(特) 教師と教育(2)ー今日の教師をとりまく社会的状況②	授業内容の復習
	6	(特) 教師と教育(3)ー「教師ー生徒」関係の課題	授業内容の復習
	7	(特) 性と教育(1)ー性教育の現状	授業内容の復習
	8	(特) 性と教育(2)ー性教育の歴史	授業内容の復習
	9	(特) 性と教育(3)ー性と人間発達の理論	授業内容の復習
	10	(特) 歴史と教育(1)ー歴史教科書問題を考える①	授業内容の復習
	11	(特) 歴史と教育(2)ー歴史教科書問題を考える②	授業内容の復習
	12	(特) 教育の現代的課題(1)ーモンスター・ペアレントについて	授業内容の復習
	13	(特) 教育の現代的課題(2)ー適応障害について①	授業内容の復習
	14	(特) 教育の現代的課題(3)ー適応障害について②	授業内容の復習
15	(特) いのちの授業について	授業内容の復習	
16	(特) 期末試験	試験の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。		
	学びの手立て 特例授業においてはTeamsを使用し、オンライン授業と小レポートを併用する。無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。毎回、リアクション・ペーパーを課す。なお、数名分を次の授業時に紹介する。五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。		
	評価 期末試験の結果によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育学Ⅰ
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	協働社会論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志 真孝	1年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	協働のまちづくりを推進するため、家庭・学校・社会教育・生涯学習の概念と関連性を把握する。社会教育施設（公民館・図書館・博物館等）の役割・機能・運営、専門的職員の資質・課題等を理解する。学校と地域、行政との協働の在り方や先進事例を通して、協働のまちづくりを考える機会とする。	学校と地域、行政との連携・協働の在り方や先進的なまちづくり事例の紹介等を行うので、実践に生かしてほしい。

学びの準備	到達目標
	1. 協働のまちづくりの概念や事例を把握して、地域のまちづくり活動への参加意識を高める。 2. 教職及び社会教育施設職員（公立公民館・図書館・博物館）志望の学生が、就職活動に生かせること。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～代替授業の進め方等～	シラバスを把握すること
	2	「協働のまちづくりとは何か」～市民・企業・行政セクターの関係性～オリエンテーション	事前に配布資料等を読むこと
	3	「NPO（法人）とは何か」～法人化の手続き・メリット等～	同上
	4	「まちづくりの考程・情報生産技術」	同上
	5	「家庭教育、学校教育、社会教育、生涯学習について」	同上
	6	「公民館の役割・機能・運営」～専門的職員の資質～	同上
	7	「仙台市民センターの先進事例紹介」	同上
	8	「図書館の役割・機能・運営」～専門的職員の資質～	同上
	9	「博物館の役割・機能・運営」～専門的職員の資質～	同上
	10	「指定管理者制度の概要」	同上
	11	「次世代の学校・地域」創生プラン(1)～全体(中央教育審議会の3答申含む)の概要～	同上
	12	「次世代の学校・地域」創生プラン(2)～コミュニティ・スクールの概要～	同上
	13	「次世代の学校・地域」創生プラン(3)～地域学校協働活動の概要～	同上
	14	「協働のまちづくりの事例紹介」～オーストラリアの先進事例～	同上
15	まとめ～振り返り～	同上	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	・テキストは指定しない。時間外の自主学習に役立つ参考文献として、以下を推薦する。 ①『協働のデザイン』～パートナーシップを拓く仕組みづくり、人づくり～世古一穂（著）学芸出版社 ②「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」中央教育審議会答申（平成27年12月21日） ③「次世代の学校・地域」創生プラン～学校と地域の一体改革による地域創生～平成28年1月25日文部科学大臣決定

学びの実践	学びの手立て
	履修の心構えとして、以下注意してください。 ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に連絡（欠席届の提出）すること。 ・代替授業のため、レジュメ等の資料で学生が理解できるよう、充実を図ります。 ・毎回、授業のテーマに関する視点・留意点等を提示するので、レジュメ、参考資料等を熟読すること。授業当日は、質疑応答により対応します。

学びの実践	評価
	○レポート：100点 ○テーマを3回に分けて、設定するので、レポートは3回提出すること。詳細は、沖国大ポータルの「授業サポート」、「授業連絡」で提示します。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	・協働のまちづくりに関する理論と事例の学びを継続することで、まちづくり活動へ関わる能力を高め、実践につなげてほしい。 ・教職及び社会教育施設職員志望の学生は、学校と地域の連携・協働の在り方や社会教育施設（公民館・図書館・博物館）と地域との関わり方について、ステップアップにつなげることを期待したい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1 年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の二つに大きく分けられるが、「経済学 I」ではミクロ経済学を学ぶ。具体的には、経済を構成する個々の消費者や企業はどのような行動をとるのか、市場において財・サービスの価格や数量はどのように決定されるのかを学ぶ。	メッセージ 経済学的視点を身につけると、社会を見る目が変わります。
	到達目標 授業で学んだ概念や理論を用いて、日々の経済事象の背後に何があるのかを自ら考えるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法などを説明する	シラバスの確認
	2	需要曲線と供給曲線	ミクロ経済学に関する文献の精読
	3	市場均衡と均衡の安定性	ミクロ経済学に関する文献の精読
	4	需要曲線・供給曲線のシフト	ミクロ経済学に関する文献の精読
	5	価格弾力性	ミクロ経済学に関する文献の精読
	6	余剰分析①	ミクロ経済学に関する文献の精読
	7	余剰分析②	ミクロ経済学に関する文献の精読
	8	消費者行動の理論①	ミクロ経済学に関する文献の精読
9	消費者行動の理論②	ミクロ経済学に関する文献の精読	
10	消費者行動の理論③	ミクロ経済学に関する文献の精読	
11	生産者行動の理論①	ミクロ経済学に関する文献の精読	
12	生産者行動の理論②	ミクロ経済学に関する文献の精読	
13	生産者行動の理論③	ミクロ経済学に関する文献の精読	
14	パレート最適①	ミクロ経済学に関する文献の精読	
15	パレート最適②	ミクロ経済学に関する文献の精読	
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しません。適宜プリントを配布します。 【参考文献】 ・マンキュー『入門経済学』東洋経済新報社		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為は厳禁。		
	評価 課題の提出状況（70%）とその内容（30%）を総合的に判断し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マクロ経済学、経済学 II
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学Ⅱ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経済学の入門編として、特にマクロ経済学のエッセンスを学習するとともに、経済学的視点から経済現象や社会問題を読み解く力、論理的に考える力を修得することを目標とします。	各回経済時事、ニュース等を取り上げながら講義をします。経済学や経済政策について広い関心を持つ経済学の初学者、経済学部以外の学生に履修を勧めます。
到達目標	①経済学の基本的な考え方、アプローチについて理解することが出来る。 ②経済政策（財政政策・金融政策）を支える基本的な考え方について理解する。 ③グローバル化の下で現代国家が抱える経済的な課題について把握し、各国の政策協調の現在を知る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを読む
	2	(特) 経済学とは何か？—マクロ経済学のアプローチ	経済記事や参考文献①を参照
	3	(特) マクロ経済学と経済指標	参考文献①を参照
	4	(特) GDPと三面等価の原則	参考文献①、②を参照
	5	(特) 消費と貯蓄の考え方	参考文献①、②を参照
	6	(特) 企業の投資	参考文献①、②を参照
	7	(特) 政府の支出	参考文献①、②を参照
	8	(特) 前半のまとめ	講義前半の振り返り
	9	(特) 総需要の経済学—ケインズ経済学(1)	参考文献②、③を参照
	10	(特) 総需要の経済学—ケインズ経済学(2)	参考文献②、③を参照
	11	(特) 金融市場と金融政策	経済記事、参考文献③を参照
	12	(特) 政府による所得分配(1)	参考文献②を参照
	13	(特) 政府による所得分配(2)	参考文献②を参照
	14	(特) 日本における財政政策と金融政策	財政・金融政策関係資料を調べる
15	(特) 講義のまとめ	講義後半の振り返り	
16	(特) 期末課題	講義全体の振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 特に指定しませんが、マクロ経済学の入門書等を参照し、基本的な考え方を押さえておくことを勧めます。
 講義では適宜プリントを配布します。
【参考文献】
 ①家森信善(2015)『基礎からわかるマクロ経済学【第4版】』中央経済社
 ②柴田章久他著(2013)『マクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア
 ③飯田泰之他著(2013)『コンパクトマクロ経済学』新世社

学びの手立て
 ○履修の心構え
 講義資料をポータルで提供し、資料に基づきMicrosoft teamsを活用して遠隔講義を実施します。「授業連絡」を確実に確認し、通信環境等を整えておくことを推奨します。毎回、出欠を確認するため課題(Googleフォーム等)を課します。課題では講義に関する質問や意見等を求めることがあるため、講義内容に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。
 ○学びを深めるために
 国内外の経済時事に広い関心を払うことを勧めます。経済学の基本的な考え方を社会生活の中で実践的に使うことを想定して学ぶ姿勢を求めます。

評価
 ○「課題」評価：45% 「課題」提出(平常点)：15% 期末テスト(または期末テスト代替課題)：40%
 ※課題提出によって出席とみなすため、原則、課題提出が3分の2に満たない場合は期末を受験する資格を失います。
 ○「課題」評価により到達目標の②を評価し、期末の課題により到達目標の①と③を評価する。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本講義の内容はマクロ経済学のエッセンスと現代の経済政策全般に関する内容を扱います。より深く学びたい人は、下記の関連科目の履修を勧めます。
【関連科目・次のステージ】
 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、経済政策総論Ⅰ・Ⅱ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	1年	学内LAN、メルアドへ	

学びの準備	ねらい 本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し、前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。	メッセージ 社会問題を冷静に見ることができることを目指す。
	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。	

学びの準備	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明	授業概要の確認、教科書PP8-9
	2	マスコミ論入門	テキストPP14-17、PP79-81
	3	マスコミの中立性 ビデオ視聴	テキスト指定箇所の読了
	4	各紙の論調の比較検討	テキスト指定箇所の読了
	5	家族問題入門 家族の機能	テキストPP18-24、PP81-86
	6	子どもの社会問題（虐待・貧困） ビデオ視聴	テキスト指定箇所の読了
	7	ジェンダーの問題	テキストPP25-27、PP86-87
	8	沖縄の家族問題	テキスト指定箇所の読了
	9	社会福祉入門：福祉の体系	テキストPP28-38、PP87-90
	10	知らないと損する社会保障	テキスト指定箇所の読了
	11	障がいとは、発達障がいについて	テキスト指定箇所の読了
	12	ビデオ視聴とその解説	テキスト指定箇所の読了
	13	安全保障論：平和実現のための各種アプローチ	テキストPP46-47、
	14	戦争の歴史	テキスト指定箇所の読了
15	喫緊の国際情勢の理解	テキスト指定箇所の読了	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト『書き込み式社会学入門』（末吉重人、球陽出版、2017年：500円） 参考文献：伊江朝章、波平勇夫、鶴飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年		
	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションで授業を進めたいが、コメントシートを使つての対話も模索する。また板書の書き取りはノートパソコンを使つても構わない。		
	評価 期末テスト（80点）と授業参加度（20点）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は、その他の社会問題関連の科目。環境問題も含む。次のステージは自分の視点を確立するための材料を集めること。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	1年	学内LAN、メルアドへ	

学びの準備	ねらい 本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。	メッセージ 社会問題を冷静に見ることができることを目指す。
	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。	

学びの準備	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明	授業概要の確認、テキストPP8-9
	2	マスコミ論入門	テキストPP14-17、PP79-81
	3	マスコミの中立性 ビデオ視聴	テキスト指定箇所の読了
	4	各紙の論調の比較検討	テキスト指定箇所の読了
	5	家族問題入門 家族の機能	テキストPP18-24、PP81-86
	6	子どもの社会問題（虐待・貧困） ビデオ視聴	テキスト指定箇所の読了
	7	ジェンダーの問題	テキストPP25-27、PP86-87
	8	沖縄の家族問題	テキスト指定箇所の読了
9	社会福祉入門 福祉の体系	テキストPP28-38、PP97-90	
10	知らないと損する社会保障	テキスト指定箇所の読了	
11	障がいとは、発達障がいについて	テキスト指定箇所の読了	
12	ビデオ視聴とその解説	テキスト指定箇所の読了	
13	安全保障論 平和実現のための各種アプローチ	テキストPP46-47	
14	戦争の歴史	テキスト指定箇所の読了	
15	喫緊の国際情勢の理解	テキスト指定箇所の読了	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト『書き込み式社会学入門』（末重重人、球陽出版、2017年：500円） 三個文献：伊江朝章、波平勇夫、鶴飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年		
	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションで授業を進めたいが、コメントシートでの対話も模索する。板書の書き取りにノートパソコンを使用しても構わない。		
	評価 期末テスト（80点）と授業参加度（20点）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は、その他の社会問題関連科目。環境問題も含む。次のステージは、自分の視点を確立するための材料を集める事。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	1年	学内LAN、メルアドへ	

学びの準備	ねらい 後期はやや深刻な社会問題を扱う。その際、社会学理論がどのように役立つかを学ぶ。社会学成立の背景となったフランス革命をおさらいし、特に最近やっと三万人を下回り始めた自殺者問題をフランスの社会学者エミール・デュルケムの際に扱う。また共同体の持つ仲間への親しみの情と他人への冷遇の「二重倫理の問題」(マックス・ウェーバー)を、沖縄の社会事業史を手掛かりに学ぶ。	メッセージ 社会問題を社会学理論で分析するようにしたい。
	到達目標 社会問題の背後に社会学理論を応用できることがあることを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明	授業概要の確認、テキストPP8-9
	2	社会学の始まりーコントと仏革命	テキストPP8-10、PP76-79
	3	自殺論とデュルケム社会学	テキストPP49-52、PP96-97
4	デュルケムの自殺理論と自殺統計	テキスト指定箇所の読了	
5	自殺関連のビデオ視聴とその解説	テキスト指定箇所の読了	
6	20世紀を席卷したマルクス主義社会学	テキストP57-61、PP98-101	
7	20世紀と社会主義革命	テキスト指定箇所の読了	
8	ビデオ視聴とその解説	テキスト指定箇所の読了	
9	宗教に焦点を当てたウェーバー社会学	テキストPP53-56、PP97-98	
10	宗教が判らないと21世紀は読めない	テキスト指定箇所の読了	
11	支配の社会学と官僚制	テキスト指定箇所の読了	
12	パーソンズの社会システム論	テキストPP62-64、PP101-103	
13	AGILとは何か	テキスト指定箇所の読了	
14	社会事業史から見る沖縄社会論	『近世・近代沖縄の社会事業史』	
15	沖縄は何時から「優しく」なったのか	『近世・近代沖縄の社会事業史』	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 『書き込み式社会学入門』(末吉重人、2017年：500円) 前期と同じテキスト。 参考文献：『社会学講義』富永健一、中公新書、1995年度初版、900円。『社会学のあゆみ』新睦人他、有斐閣新書1993年22版。『近世・近代沖縄の社会事業史』末吉重人・榕樹書林2004年		
	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションを通じて授業を行いたい、コメントシートを通じての対話も模索する。板書の書き写しにノートパソコンを使用しても構わない。		
	評価 前後期とも期末テスト(80点)と授業参加度(20点)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は、社会学理論・文化人類学関連の授業。次のステージは、自分の好む社会学理論に的が絞れるようにすること。
-------	--

※ポリシーとの関連性

自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め、考え、判断し、主体的に行動することができる人物を培う。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅰ	通年	月3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	3年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、博物館活動を模擬的に体験する講義と実習を行う。博物館機能における、「調査・研究」「展示」「教育」を体験的に学び学芸員としての知識や技術の習得を目指す。	【実務経験】博物館における実務経験を活かして、博物館運営や遺跡発掘経営について解説する。

到達目標
豊かな思考力でモノ資料を探求し、展示や教育普及事業等とおし表現する技術を習得できる。 博物館実習に必要な基礎的な技術が習得できる。

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（講義の目的、進め方について） 2～3. 資料調査（本年度の企画展示内容は、「琉球の墓、厨子甕」を予定する） 4～7. 企画会議 8～9. 展示解説シートの作成 10～11. 資料収集 12～13. 資料作成 14～15. 中間報告 16. 後期ガイダンス 17～26. 展示会準備・展示資料製作・搬入 12月頃（予定）に2週間程度展示会開催 1月頃（予定）に本学での企画展を予定。 <p>企画展に関する関連イベントを開催 28～30. 片付け、お礼状送付、報告書作成 ※学外ゼミを企画し、博物館見学等を計画する。 ※時間外の学習として、博物館を訪ね展示会を多く見学し、社会教育施設で開催されている事業に積極的に参加すること。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストとして下記文献を用いる。 沖縄県地域史協議会編1989『シンポジウム南島の墓』沖縄県教育委員会 授業では、適宜参考文献等を提示する。 自ら資料を調べ展示物を作成し、仲間と共に協力し学び合うことを重視し、演習形式で授業を進める。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業時間として授業を延長することもある。 ・それぞれが展示資料づくりを行うため、自ら調査、資料収集、展示物製作を行う。 ・博物館資格取得科目である「博物館学概論」「博物館資料論」「博物館教育論」を事前に受講しているとより理解が早い。但し、博物館学芸員資格取得を目指す学生以外の受講生にも本講義を理解できるよう配慮する。
<p>評価</p> <p>平常点（100%）。各自与えられたテーマや展示コーナーのパネル作成などを評価の対象とする。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>企画展づくりをとおして、調べるだけでなく調べたことを表現する能力を身につけ、仲間と共同で作業をすることの大切さを学ぶ。 上位科目としては「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」を位置づける。博物館実習前の受講を推奨する。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に探求する能力を鍛える。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究 I	通年	金 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	3年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい NIMBY問題とはどのような社会問題であるか？ 本演習のねらいは、文献を輪読することで、その基本的な知識を学び、NIMBY問題を政治経済学的に考察・分析していくことにある。	メッセージ 演習は教員による一方的な講義形式の授業ではありません。学生が見いだしたテーマについて議論し、NIMBY問題を未然に防ぐための有効な方策を一緒に考えていきましょう。
	到達目標 迷惑施設の立地という具体的な問題に対して、様々な視点から考え、議論する能力を高める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） NIMBY（ニンビー）とは、Not In My Backyardの略語で、「必要性は認めるが、わが家のそばに建てられるのはごめんだ」という、いわゆる迷惑施設の立地に反対する住民達の態度や行動を指す言葉である。 軍事基地、原子力発電所、廃棄物処理場はもとより、近年では保育園までも迷惑施設と見なす人々もいる。 なぜこのような問題が生じるのか。どうすれば解決することができるのか。 前期は、文献を輪読し、具体的な事例を通じてNIMBY問題（立地選定、住民合意形成、安全性、運用に対する不安や不信任など）への理解を深める。 後期は、特例授業にて行う。 内容は、NIMBY問題について学生による事例報告と全体討論を行い、報告書を作成する。
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指定する。
	学びの手立て 日頃から新聞・テレビなどのニュースをチェックし、様々なNIMBY問題に関心を持つように！
	評価 授業参加度（30%）と報告内容（70%）を総合的に判断し評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会生活課題研究 II
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究 I	通年	火 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	3年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。調査内容は、集落景観調査及び社会空間調査（親族組織・祭祀組織の空間的關係、移住者の居住環境）に関して、渡名喜村と本部町において調査を実施する。	野外科学としての人文地理学・歴史地理学の方法について、現場において体得します。調査については、事前準備、現場での調査内容・方法の検討、調査後の報告書作成など、チームワークが必要とされる場面もあります。沖縄の地理空間に関心のある学生の皆さんの参加を期待します。
到達目標	人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学における地域調査の目的と役割	シラバスをよく読むこと
	2	地域調査の種類と方法について	事前に配ったプリントを読むこと
	3	データの種類と活用方法	同上
	4	地域調査における文献の検討①	同上
	5	地域調査における文献の検討②	同上
	6	地域調査における文献の検討③	同上
	7	地域調査における地図化作業の意味	同上
	8	地形図の利用①－縮尺・等高線・地図記号－	同上
	9	地形図の利用②－読図の方法－	同上
	10	地形図の利用③－読図の事例－沖縄本島の都市地域－	同上
	11	地域調査の事例－渡名喜島－	同上
	12	地域調査の事例－伊平屋島－	同上
	13	地域調査の事例－伊江島－	同上
	14	地域調査の事例－久米島－	同上
	15	前期課題のまとめ－レポートの提出－	同上
	16	(特) 後期における地域調査の設計	同上
	17	(対) 調査地域の検討－本部町－	同上
	18	(特) データの取得と仮説の検討	同上
	19	(対) 調査計画の検討	同上
	20	(特) 地域調査に向けての文献の検討①－本部町の自然地理（地形・地質）－	同上
	21	(対) 地域調査に向けての文献の検討②－本部町の自然地理（気候・水文）－	同上
	22	(特) 地域調査に向けての文献の検討③－本部町の人文地理（村落の景観）－	同上
	23	(対) 地域調査に向けての文献の検討④－本部町の人文地理（村落の社会構造）－	同上
	24	(特) 地域調査の内容検討（とくに質的調査の方法）	同上
	25	(対) 地域調査の実施①	同上
	26	(特) 地域調査の実施②	同上
	27	(対) 地域調査の結果集計	同上
	28	(特) 地域調査の結果の分析	同上
	29	(対) 地域調査の結果のまとめ	同上
30	(特) 報告書のまとめと製本①	同上	
31	(対) 報告書のまとめと製本②	同上	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有菌正一郎・遠藤匡俊・小野寺淳・古田悦造・溝口常俊・吉田俊弘編著『歴史地理調査ハンドブック』古今書院
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド調査を行う場合は、週末に実施することもある。 ・調査の全段階（調査計画、調査票作成、調査データの集計・分析、報告書作成）において、受講生は主体的に関わること。 ・調査はグループ単位で行うので、メンバー内のコミュニケーションを大事にして下さい。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点：講義中の課題提出と発表（40点） ・フィールド調査のレポート（60点）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域調査の方法をフィールドで体得することで、「地域」への理解を深める。

※ポリシーとの関連性

自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め、考え、判断し、主体的に行動することができる人物を培う。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅱ	通年	月3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	4年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、博物館活動を模擬的に体験する講義と実習を行う。博物館の展示、教育等に関する論文を作成し、学芸員としての知識や技術の習得を目指す。	【実務経験】博物館における実務経験を活かして、博物館での実際の企画展づくりなど実務を学びます。

到達目標	豊かな思考力でモノ資料を探求し、博物館における展示や教育普及事業を調査研究し、博物館運営について考えることができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（講義の目的、進め方について） 2～3. 資料調査（本年度の企画展示内容は、「琉球の墓、厨子甕」を予定する） 4～7. 企画会議 8～9. 展示解説シートの作成 10～11. 資料収集 12～13. 資料作成 14～15. 中間報告 16. 後期ガイダンス 17～26. 展示会準備・展示資料製作・搬入 12月頃（予定）に2週間程度展示会開催 1月頃（予定）に本学での企画展を予定。 <p>企画展に関する関連イベントを開催 28～30. 片付け、お礼状送付、報告書作成 ※学外ゼミを企画し、他大学との合同ゼミ、博物館見学等を計画する。 ※時間外の学習として、博物館を訪ね展示会を多く見学し、社会教育施設で催行されている事業に積極的に参加すること。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストとして下記文献を用いる。 沖縄県地域史協議会編1989『シンポジウム南島の墓』沖縄県教育委員会 授業では、適宜参考文献等を提示する。 自ら資料を調べ展示物を作成し、仲間と共に協力し学び合うことを重視し、演習形式で授業を進める。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業時間として授業を延長することもある。 ・それぞれが展示資料づくり、論文執筆のため、自ら調査、資料収集等を行う。 ・上位科目である社会生活課題研究Ⅰを履修すること。
<p>評価</p> <p>平常点（100%）。各自与えられたテーマや展示コーナーのパネル作成などを評価の対象とする。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>博物館に関する運営や館活動について文献だけでなく、自ら博物館を訪ねて学ぶ事を推奨する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅱ	通年	火3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	4年	sakahama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。調査内容は、集落景観調査及び社会空間調査（親族組織・祭祀組織の空間的關係、移住者の居住環境）に関して、渡名喜村と本部町において調査を実施する。	メッセージ 野外科学としての人文地理学・歴史地理学の方法について、現場において体得します。調査については、事前準備、現場での調査内容・方法の検討、調査後の報告書作成など、チームワークが必要とされる場面もあります。沖縄の地理空間に関心のある学生の参加を期待します。
	到達目標 人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学における地域調査の目的と役割	シラバスをよく読むこと
	2	地域調査の種類と方法について	事前に配ったプリントを読むこと
	3	データの取得と活用方法	同上
	4	地域調査における文献の検討－渡名喜村の自然環境－	同上
	5	地域調査における文献の検討－渡名喜村の歴史・文化－	同上
	6	地域調査におけるデータの取得	同上
	7	地域調査における地図化作業の意味	同上
	8	地形図の利用①－縮尺・等高線・地図記号－	同上
	9	地形図の利用②－読図－	同上
	10	地形図の利用③－読図の比較－	同上
	11	国土基本図の利用方法	同上
	12	地籍図・住宅地図の利用方法	同上
	13	空中写真の利用方法	同上
	14	アンケート調査・ヒアリング調査を用いた地域調査の企画	同上
	15	アンケート調査・ヒアリング調査を用いた地域調査の設計	同上
	16	地域調査の設計（調査の目的と方法、調査内容の決定）	同上
	17	地域調査の実施－渡名喜村－	同上
	18	データの取得方法と仮説の検討	同上
	19	渡名喜村における調査結果の検討	同上
	20	地域調査に向けての文献の検討①－本部町の自然地理（地形・地質）－	同上
	21	地域調査に向けての文献の検討②－本部町の自然地理（気候・水文）－	同上
	22	地域調査に向けての文献の検討③－本部町の人文地理（村落の景観）－	同上
	23	地域調査に向けての文献の検討④－人本部町の文地理（村落の社会構造）－	同上
	24	地域調査の内容検討	同上
	25	地域調査の実施①－本部町－	同上
	26	地域調査の実施②－本部町－	同上
	27	地域調査の結果集計	同上
	28	地域調査結果の分析	同上
	29	地域調査のまとめ	同上
30	報告書のまとめと製本①	同上	
31	報告書のまとめと製本②	同上	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 ・有蘭正一郎・遠藤匡俊・小野寺淳・古田悦造・溝口常俊・吉田敏弘編著 『歴史地理調査ハンドブック』古今書院</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド調査を行う場合は、週末や夏休みに実施することもある。 ・調査の全段階（調査計画、調査票作成、調査データの集計・分析、報告書作成）において、受講生は主体的に関わること。 ・調査はグループ単位で行うので、メンバー内のコミュニケーションを大事にしてください。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点：講義中の課題提出と発表内容（40点） ・フィールド調査のレポート（60点）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域調査の方法をフィールドで体得することで、「地域」への理解を深める。

※ポリシーとの関連性 自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に探求する能力を鍛える。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅱ	通年	金1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	4年	研究室：5636 E-mail：knakachi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい NIMBY問題とはどのような社会問題であるか？ 本演習のねらいは、文献を輪読することで、その基本的な知識を学び、NIMBY問題を政治経済学的に考察・分析していくことにある。	メッセージ 演習は教員による一方的な講義形式の授業ではありません。学生が見いだしたテーマについて議論し、NIMBY問題を未然に防ぐための有効な方策を一緒に考えていきましょう。
	到達目標 迷惑施設の立地という具体的な問題に対して、様々な視点から考え、議論する能力を高める。	

学びの準備	到達目標 迷惑施設の立地という具体的な問題に対して、様々な視点から考え、議論する能力を高める。
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>NIMBY（ニンビー）とは、Not In My Backyardの略語で、「必要性は認めるが、わが家のそばに建てられるのはごめんだ」という、いわゆる迷惑施設の立地に反対する住民達の態度や行動を指す言葉である。 軍事基地、原子力発電所、廃棄物処理場はもとより、近年では保育園までも迷惑施設と見なす人々もいる。 なぜこのような問題が生じるのか。どうすれば解決することができるのか。</p> <p>前期は、文献を輪読し、具体的な事例を通じてNIMBY問題（立地選定、住民合意形成、安全性、運用に対する不安や不信任など）への理解を深める。</p> <p>後期は、特例授業にて行う。 内容は、NIMBY問題について学生による事例報告と全体討論を行い、報告書を作成する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義時に指定する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>日頃から新聞・テレビなどのニュースをチェックし、様々なNIMBY問題に関心を持つように！</p>
	<p>評価</p> <p>授業参加度（30%）と報告内容（70%）を総合的に判断し評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文</p>
-------	--------------------------------

※ポリシーとの関連性

福祉の基本的考え方、歴史の変遷、福祉制度の構造を学びます。社会福祉専攻者だけでなく、一般学生も福祉の概要が学べます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉入門Ⅰ	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	1年	take10140730@gmail.com	

学びの準備	ねらい 現代社会における社会福祉の意義、歴史や理念の変遷、社会福祉諸制度の概要など幅広く福祉について学びます。	メッセージ ①社会福祉全般の知識が得られます。②現代社会の福祉最新情報、現場の動きが事例を通して学ぶことができる。③現代社会の福祉課題が認識できる。
	到達目標 社会福祉の全体像が理解できるようになる。各福祉制度の構造、具体的なサービス内容が理解出来る。現代社会の福祉の課題が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	社会福祉とは、何かを考え自分の中でまとめる。
	2	社会福祉の自分なりのイメージをまとめレポートする。
	3	自分が経験した福祉体験をまとめレポートする。
	4	ノーマライゼーション理論の考え方をしらべそれをまとめる。
	5	福祉現場におけるソーシャルワーカーの役割を調べそれをまとめる。
	6	福祉世界における自立とは何かを調べそれをまとめる。
	7	障害者総合支援法の内容を調べその概要をまとめる。
	8	介護保険法の内容を調べ概要をまとめる。
9	生活保護法の内容を調べ生活保護法の課題についてまとめる。	
10	児童福祉法の概要を調べ児童虐待を防止するにはどうすればいいかを考えまとめる。	
11	人権と権利について考え、虐待防止についてまとめる。	
12	権利擁護システムの一つ苦情解決システムについて調べまとめる。	
13	成年後見制度について調べこの制度が何故必要かについて考えまとめる。	
14	成年後見活動の実際について調べその課題についてまとめる。	
15	日常生活自立支援事業の内容を調べその役割についてまとめる。	
16	まとめとテスト	
	時間外学習の内容	
	社会福祉の視点を理解	
	社会福祉のイメージをまとめる	
	福祉体験をまとめる	
	ノーマライゼーションの理解	
	ソーシャルワーカーの理解	
	自立の概念の理解	
	障害者総合支援法の仕組の理解	
	介護保険法の仕組みの理解	
	生活保護法の仕組を理解	
	児童虐待防止法を理解	
	権利擁護虐待防止を理解	
	苦情解決システムの理解	
	成年後見制度の理解	
	成年後見活動の理解	
	日常生活自立支援事業の理解	
	テキスト・参考文献・資料など インターネット情報 各福祉の教科書等を参照する。	
	学びの手立て 毎回ポータルで課題を出しますのでその課題の内容を良く調べまとめて期限内に提出してください。	
	評価 ①授業の最後に小レポートの提出で評価60%(4点×15回) ②期末テスト評価40%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会福祉入門Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉入門Ⅱ	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	1年	take10140730@gmail.com	

学びの準備	ねらい ソーシャルワークの技術の基本が学べる。ソーシャルワーカーとしての倫理性を理解する。	メッセージ 対人援助の基本を学び、具体的な支援方法をソーシャルワークの技術から学ぶ
	到達目標 ソーシャルワークの基本原則、価値と倫理 具体的なソーシャルワーク技法を学ぶ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	自己覚知① 自分の特性を理解する。
	2	自己覚知② 自分の価値観を分析する。
	3	コミュニケーション技法を学ぶ 言語・非言語コミュニケーション
	4	具体的な面接技法を学ぶ
	5	他者理解・福祉利用者の困難性を環境因子から考える。
	6	価値と倫理 倫理綱領を考える。
	7	社会福祉援助技術の基本原則と種類
	8	ケースワークの実際
9	グループワークの実際	
10	コミュニティワークの実際	
11	ケアマネジメント手法の実際	
12	ケアマネジメント演習 アセスメントの実際	
13	社会福祉経営管理の実際	
14	リスクマネジメントの実際	
15	スーパービジョンの実際	
16	まとめとテスト	
	テキスト・参考文献・資料など 毎回レジュメを配布	時間外学習の内容 ライフストーリーを完成する 色々な場面で自分の価値観を知る 意識したコミュニケーション 面接場面を経験する 他人を理解すること 専門性を理解する ソーシャルワークの種類を学ぶ ケースワークの基本原則 グループワークの基本原則 コミュニティワークの基本原則 ケアマネジメントの基本原則 ケアマネジメントの手法 社会福祉経営の具体的な方法 リスクマネジメントの基本原則 スーパービジョンの基本原則
	学びの手立て レジュメに講義の概要をまとめてあるが、講義内容をよく聞いて、その場で理解するように心がける。聞き逃すと授業についていけない場合もあるので、よく聴き、また他の受講生のじゃまにならないように静かに聴講する。専門用語などが分からないときは、その場で質問するか、質問用紙で質問する。	
	評価 ①授業の最後に小レポートの提出で評価45% ②期末テスト評価55%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会福祉入門Ⅰ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生涯学習概論	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・施策・行政機関、また家庭教育・学校教育・社会教育との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等について理解する。	メッセージ 【実務経験】 地方行政の社会教育現場での実務経験を活かして、社会教育施設等の機能や職員の役割、施設の課題点について考え、実践例を交え生涯学習の意義について学びます。
	到達目標 生涯学習の基本的な考え方を理解し、自分の言葉で説明できる。 生涯学習の考え方にに基づき、自ら学習を提供できるような企画が立案できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	生涯学習社会の意義と生涯学習社会の構築	関連資料を配布するので読むこと
	3	生涯各期の学習課題	関連資料を配布するので読むこと
	4	学校教育・社会教育・家庭教育	関連資料を配布するので読むこと
	5	日本の教育と社会教育行政のあゆみ	関連資料を配布するので読むこと
	6	学習形態と指導者	関連資料を配布するので読むこと
	7	NPO・ボランティアと生涯学習	関連資料を配布するので読むこと
	8	博物館における生涯学習の実践	関連資料を配布するので読むこと
	9	美術館における生涯学習の実践	関連資料を配布するので読むこと
	10	図書館・公民館における生涯学習の実践	関連資料を配布するので読むこと
	11	動植物園等における生涯学習の実践	関連資料を配布するので読むこと
	12	公民館等における生涯学習の実践	関連資料を配布するので読むこと
	13	世界の生涯学習	関連資料を配布するので読むこと
	14	生涯学習による地域づくり	関連資料を配布するので読むこと
15	まとめ	関連資料を配布するので読むこと	
16	テスト	復習を怠らないようにすること	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。出席確認を毎回厳格に行う。 基本的に講義形式で行い、毎回資料を配布予定。 参考文献①鈴木眞理ほか(編著)2011年『生涯学習の基礎[新版]』学文社。②伊藤俊夫2010年『新訂 生涯学習概論』ぎょうせい。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 ・「博物館学概論」を受講していると理解は早い。もちろん、受講していない学生も本講義を理解できるよう配慮する。		
	評価 小テスト(50%)。期末課題(50%)。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学芸員の視点から広く情報を収集し、多くの学習会等生涯学習事業に積極的に参加すること。関連・上位科目として「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生涯学習概論	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	1年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会教育を包括した「生涯学習」の意義と本質、生涯学習社会を支える公共図書館の専門職員に必要な考え方や職務内容を理解する。そのため、教育分野全体の法体系、行財政などを取り上げ、家庭・学校・社会教育の関連性を把握する。さらに、生涯学習社会を支える公共図書館の地域社会への関わりと役割、MLAなどの連携・協力、そして施設を担う専門的職員の機能・役割について解説する。	メッセージ 公共図書館を取り巻く社会変化を把握する。
	到達目標 生涯学習社会への変化の中で、これからの公共図書館と図書館司書は何を考え、どのように行動するのかという、図書館現場における試行的・行動的枠組みをとらえることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	生涯学習の概念	第1～4週：「生涯学習社会とは」について、関連文献での事前調査及び講義内容をまとめる
	2	生涯学習・教育論の展開	
	3	生涯学習社会における家庭・学校・社会教育 1	
	4	生涯学習社会における家庭・学校・社会教育 2	
	5	日本の社会教育	第5～9週：「法体系、自治体の取り組み」について、関連文献での事前調査及び講義内容をまとめる
	6	教育関連の法体系	
	7	自治体の教育行財政	
	8	社会教育の内容・方法・形態	
	9	生涯学習社会と教育施設の関連性	
	10	社会教育施設1-1：公民館：管理・運営・職員	第10～15週：「公共施設の3本柱」について、関連文献での事前調査及び講義内容をまとめる
	11	社会教育施設2-1：博物館：管理・運営・職員	
	12	社会教育施設3-1：公共図書館：管理	及び講義内容をまとめる
	13	社会教育施設3-2：公共図書館：運営方法	(特に図書館司書に重点を置く)
	14	社会教育施設3-3：公共図書館：職員(司書)	
	15	教育関連施設の連携・協力	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じてプリントを配布する。		
	学びの手立て 図書館司書資格の修得を目指す人は、1年次に課程の最初の科目として「図書館概論」で公共図書館の概要を把握する。また「生涯学習概論」では、公共図書館を取り巻く社会変化の内容と方向性を大きく把握する。「学芸員」資格取得の志望者は、社会文化学科開設の同科目を履修すること。		
	評価 今年度は、毎週の代替授業の「課題レポート」(70%)及び「期末レポート」(30%)による総合的評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 司書課程の他科目
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	女性学	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-親川 裕子	1年	ptt1044@okiu.ac.jp もしくは講義終了後、教室でお受けします。	

学びの準備	ねらい ジェンダーの視点をとおして社会の枠組みや構造、法律などを知る。ジェンダーに関わる多様な諸問題を認識し、課題解決に向けた批判的思考を拓げる。	メッセージ ジェンダーは「社会的、文化的性差」として、身体的な性差とは異なる概念と認識されています。「女／男らしさ」や「女／男であれば〜であるべき」というジェンダー・バイアス（偏見）な考え方で取捨されてきたことそれがいままぜ捉え直されているのかを考えてみたいと思います。
	到達目標 本講義では、まず世界や日本におけるジェンダー研究の成り立ちを踏まえ、ジェンダー的視点や思考について理解し、批判的視野を広げる。（特に専門的なジェンダー理論の習得を目指すものではないが、希望する学生には個別に対応する）具体的には伝統や慣習に内在するジェンダー、就職、結婚や離婚、出産、育児、介護といったライフステージにおけるジェンダー的課題について、必ずしもジェンダー・バイアスから自由では無い事象とは何か知見を広げることを試みる。さらに、性暴力・性の多様性・メディア・表象など、社会のあらゆる場面で起きているジェンダーに派生する社会問題について身近な問題として捉え、どのような問題解決の糸口が探れるのかを分析・考察していく。後半では沖縄に内在する様々な諸問題をジェンダー的視点から考える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「女性学」ガイダンス：ジェンダー概論	シラバスの確認
	2	日本におけるジェンダー（論／学／スタディーズ）	女性差別撤廃条約の概要を理解
	3	アンコンシャス・バイアス	新聞からジェンダー関連記事の収集
	4	教育カリキュラムにおけるジェンダー ～隠れたカリキュラム～	上記関連記事についての調査
	5	職業、労働に見るジェンダー	上記調査結果について感想
	6	育児、介護におけるジェンダー	雑誌からジェンダー関連記事の収集
	7	親密圏におけるジェンダー ～DV, 性虐待, デートレイプ～	上記関連記事についての調査
	8	学生と性暴力	中間レポート作成用の課題設定
	9	性暴力と法	中間レポート作成用資料収集
	10	ダイバーシティ&インクルージョン	ジェンダー関連文献選定
	11	女性と貧困	中間レポート用調査、分析
	12	ジェンダーの視点から考える人権①	中間レポート作成提出
	13	ジェンダーの視点から考える人権②	目取真俊『虹の鳥』『目の奥の森』
	14	ジェンダーの視点から考える人権③	目取真俊『虹の鳥』『目の奥の森』
	15	沖縄・ジェンダー マイノリティ女性、複合差別を考える	期末試験用課題設定資料収集
16	期末試験：記述式、小論	期末試験用課題設定資料収集	

実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は無く、都度、講義で資料を配布します。参考文献についても講義の中で適宜、提示しますが、広く、ジェンダー関連の書籍に積極的に触れる機会を作ってください。
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○講師都合により休講となる場合があります。補講は土曜日の1校目もしくは2校目に行います。 ○履修の心構え 遅刻、私語、居眠りには厳しく減点します。新聞の購読（地元紙は特に）必須。 ○学びを深めるために 講義毎にレスポンスシートを書いて提出していただきます。
--------	--

評価	レスポンスシートのコメントを講義への参加度とみなし40%、中間レポート30%、期末筆記試験30%のバランスで評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ○関連科目：ジェンダーをより専門的に理解したい場合、法的思考、リーガルマインドを培う意味で法的科目も積極的に受講されることをお勧めします。また、沖縄近現代史など沖縄の歴史の講義は、弱者や「他者」「人権」の概念について理解を深めることができるでしょう。○次のステージ：批判的視点を広げるために日頃から新聞や雑誌（文芸誌など）を読む習慣をつけ、自分の言葉で考えをまとめる作業を続けてほしいと思います。
-------	---

※ポリシーとの関連性

複雑な構造をもつ社会のメカニズムおよびそこにおける文化や生活を解説するための知見を、政治学の成果から提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	政治学Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	1年	hidekis@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>政治学をはじめ本格的に学ぶ者のために、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて一般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学Ⅰ」では「現代日本の政策形成」について詳しく、そしてわかりやすく話をしたい。また、現実が生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。</p>	<p>「政治」について議論すること、「政治学」について議論することとは異なる。また、現実社会の政治運動のために「政治学」があるわけでも全くない。あくまで、「学問」としての「政治学」の研究成果を学ぶのだ、という意識で授業に臨んでもらいたい。</p>
到達目標	政治学上の基礎概念を理解できる。現代の我が国の政策形成過程を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講オリエンテーション (特)	政治学Ⅰの概要について理解
	2	政策形成過程 (1) : 省庁 (特)	プリント指定箇所の予習復習
	3	政策形成過程 (2) : 与党 (特)	プリント指定箇所の予習復習
	4	政策形成過程 (3) : 内閣 (特)	プリント指定箇所の予習復習
	5	政策形成過程 (4) : 国会 (特)	プリント指定箇所の予習復習
	6	政策形成過程 (5) : 「ヴィスコシティ」 (特)	プリント指定箇所の予習復習
	7	政策遂行過程 (1) : 行政立法 (特)	プリント指定箇所の予習復習
8	政策遂行過程 (2) : 族議員 (特)	課題レポートへの取り組み	
9	政策遂行過程 (3) : 利益団体 (特)	プリント指定箇所の予習復習	
10	天下り (1) (特)	プリント指定箇所の予習復習	
11	天下り (2) (特)	プリント指定箇所の予習復習	
12	入札と談合 (特)	プリント指定箇所の予習復習	
13	談合の実態 (特)	プリント指定箇所の予習復習	
14	談合と沖縄 (特)	プリント指定箇所の予習復習	
15	講義のまとめ (特)	試験対策	
16	試験 (特)	試験後チェック	
テキスト・参考文献・資料など	<p>使用しない。プリントを適宜配布。 参考書は開講時に指定。</p>		
学びの手立て	<p>私語は厳禁。真面目に授業を聞こうとする学生を、私語で邪魔をする権利は受講者の誰にもないはずである。また、日々生起する様々な政治問題に触発されつつ考える習慣を身に付けてほしい。</p>		
評価	<p>定期試験の結果80%、課題レポート10%、リアクションペーパー10%。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「政治学Ⅱ」をあわせて履修することが望ましい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

複雑な構造をもつ社会のメカニズムおよびそこにおける文化や生活を解説するための知見を、政治学の成果から提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	政治学Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	1年	hidekis@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	政治学をはじめ本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学Ⅱ」では現代政治学の基本理論を整理・紹介するとともに、現実に生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。	「政治」について議論すること、「政治学」について議論することとは異なる。また、現実社会の政治運動のために「政治学」があるわけでも全くない。あくまで、「学問」としての「政治学」の研究成果を学ぶのだ、という意識で授業に臨んでもらいたい。
到達目標	政治学上の基礎概念を理解できる。現代政治学の成果を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講オリエンテーション：「居酒屋政治談議」を超えて（特）	政治学の概要の復習
2	政治（特）	プリント指定箇所の予習復習	
3	政治学（特）	プリント指定箇所の予習復習	
4	政治権力（特）	プリント指定箇所の予習復習	
5	政治体制（特）	プリント指定箇所の予習復習	
6	政治過程（特）	プリント指定箇所の予習復習	
7	選挙（1）（特）	プリント指定箇所の予習復習	
8	選挙（2）（特）	レポート課題への取り組み	
9	政党（1）（特）	プリント指定箇所の予習復習	
10	政党（2）（特）	プリント指定箇所の予習復習	
11	官僚制（特）	プリント指定箇所の予習復習	
12	利益集団・市民運動（特）	プリント指定箇所の予習復習	
13	マスメディア（特）	プリント指定箇所の予習復習	
14	地方自治（特）	プリント指定箇所の予習復習	
15	講義のまとめ（特）	試験対策	
16	試験（対）	試験後チェック	
	テキスト・参考文献・資料など	プリントを随時配布。参考書は開講時に指定。	
	学びの手立て	私語は厳禁。真面目に授業を聞こうとする学生を、私語で邪魔をする権利は受講者の誰にもないはずである。また、日々生起する様々な政治問題に触発されつつ考える習慣を身に付けてほしい。	
	評価	定期試験の結果70%、課題レポート20%、リアクションペーパー10%。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「政治学Ⅰ」をあわせて履修することが望ましい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

世界の諸地域における「人間」を取り巻く地理的環境について、基本的な知識・技能を身に付け、良識を深める。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1 年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地理学には、自然環境と人間・社会環境を総合的に記述する地誌学と、自然環境を主に考証する自然地理学、さらには人文・社会現象を主に考証する人文地理学による分類がある。総じて言えることは、「自然と人間」「空間・場所と人間」との関わりを明らかにすることが地理学の役割である。本講義では、とくに地誌学的視点から世界の諸地域を俯瞰する。</p>	<p>世界の地理的環境について、スライド・映像資料などを用いながら、わかりやすく講義します。</p>
到達目標	世界の諸地域における地理的環境を学び、それが人間生活に強く影響していることを理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地理学の成立	シラバスをよく読むこと
	2	地理学の方法	事前に配ったプリントを読むこと
	3	地図の歴史①－世界地図－	同上
	4	地図の歴史②－日本地図－	同上
	5	地図の利用方法①－統計地図－	同上
	6	地図の利用方法②－統計地図の作成－	同上
	7	地図の利用方法③－主題図の作成方法－	同上
8	地域と景観①－韓国・済州島の自然環境－	同上	
9	地域と景観②－韓国・済州島の歴史景観（動画）－	同上	
10	地域と景観③－韓国・済州島の過去と現在	同上	
11	地域と景観④－ミクロネシア（旧南洋群島）の地理と歴史－	同上	
12	地域と景観⑤－ミクロネシア・サイパン島の景観と環境（動画）－	同上	
13	地域と景観⑥－ミクロネシア・サイパン島の過去と現在－	同上	
14	環境と生態①－ヒートアイランド現象とは何か－	同上	
15	環境と生態②－東京におけるヒートアイランド現象	同上	
16	まとめ（レポート提出）		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の中で適宜紹介する。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前に課題を提示する。 ・地図帳を活用して講義に参加すること。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・課題（レポート）による評価 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域における地理的環境を理解し、後期開講する地理学Ⅱに繋げる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための共通科目の提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学Ⅰでは、地球上の自然環境と資源と産業について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。	メッセージ 新聞、テレビ・ラジオ、ネットの自然環境や経済に関するニュースに関心を持ち、つねにニュース現場の場所を地図で調べる習慣を身につけてもらいたい。
	到達目標 地理的なものの見方、考え方を習得してもらう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地理学とは? 【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	2	地形と気候 ①【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	3	地形と気候 ②【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	4	地形と気候 ③【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	5	植生と土壌、水資源について【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	6	自然災害と環境問題①【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	7	自然災害と環境問題②【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	8	世界と日本の農業①【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	9	世界と日本農業②【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	10	世界と日本農業③【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	11	世界と日本の林業・水産業【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	12	エネルギーと資源【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	13	世界と日本の工業地域①【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	14	世界と日本の工業地域②【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	15	世界と日本の工業地域③【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	16	まとめ【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	テキスト・参考文献・資料など 『新詳 資料地理の研究』、帝国書院 定価980円 『新詳高等地図』、帝国書院 1,500円 授業の中でその都度紹介する。		
	学びの手立て 1. 授業で取り扱った内容の場所を地図帳で確認すること。 2. 板書内容はきちんとノートすること。 3. 私語厳禁。		
	評価 レポートで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地理学Ⅱ、沖縄の地理
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地理学には、自然環境と人文環境について総合的に記述する地誌学と、自然環境を主に考証する自然地理学、さらには人文・社会現象を主に考証する人文地理学による分類がある。総じて言えることは、「自然と人間」「人間と空間・場所」との関わりを明らかにすることが地理学の役割である。本講義では、経済立地論の視点から地域の諸相を検討する。</p> <p>到達目標 経済立地論の視点を理解する。</p>	<p>経済立地論の視点から地域の特性を検討します。また人口・産業・交通などの分布・変容過程などから地域形成のパターンを読み解きます。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>(特) 地理学の方法</td><td>シラバスをよく読むこと</td></tr> <tr><td>2</td><td>(特) 地理学と地図①-地図の歴史-</td><td>事前に配ったプリントを読むこと</td></tr> <tr><td>3</td><td>(特) 地理学と地図②-日本の地図-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>4</td><td>(特) 地理学と地図③-琉球・沖縄の地図-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>5</td><td>(特) 農業と地域①-世界の農業-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>6</td><td>(特) 農業と地域②-日本の農業-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>7</td><td>(特) 農業と地域③-沖縄県の農業-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>8</td><td>(特) 工業と地域①-日本の工業地域-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>9</td><td>(特) 工業と地域②-日本(関東・関西地方)の工業立地-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>10</td><td>(特) 都市の立地①-ヨーロッパ・アメリカの都市-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>11</td><td>(特) 都市の立地②-アジアの都市-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>12</td><td>(特) 都市の立地③-日本の都市-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>13</td><td>(特) 沖縄の都市空間①-沖縄コナベーション-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>14</td><td>(特) 沖縄の都市空間②-先島諸島-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>15</td><td>(特) まとめ-地理学と生活空間-</td><td>同上</td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	(特) 地理学の方法	シラバスをよく読むこと	2	(特) 地理学と地図①-地図の歴史-	事前に配ったプリントを読むこと	3	(特) 地理学と地図②-日本の地図-	同上	4	(特) 地理学と地図③-琉球・沖縄の地図-	同上	5	(特) 農業と地域①-世界の農業-	同上	6	(特) 農業と地域②-日本の農業-	同上	7	(特) 農業と地域③-沖縄県の農業-	同上	8	(特) 工業と地域①-日本の工業地域-	同上	9	(特) 工業と地域②-日本(関東・関西地方)の工業立地-	同上	10	(特) 都市の立地①-ヨーロッパ・アメリカの都市-	同上	11	(特) 都市の立地②-アジアの都市-	同上	12	(特) 都市の立地③-日本の都市-	同上	13	(特) 沖縄の都市空間①-沖縄コナベーション-	同上	14	(特) 沖縄の都市空間②-先島諸島-	同上	15	(特) まとめ-地理学と生活空間-	同上	16		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	(特) 地理学の方法	シラバスをよく読むこと																																																	
	2	(特) 地理学と地図①-地図の歴史-	事前に配ったプリントを読むこと																																																	
3	(特) 地理学と地図②-日本の地図-	同上																																																		
4	(特) 地理学と地図③-琉球・沖縄の地図-	同上																																																		
5	(特) 農業と地域①-世界の農業-	同上																																																		
6	(特) 農業と地域②-日本の農業-	同上																																																		
7	(特) 農業と地域③-沖縄県の農業-	同上																																																		
8	(特) 工業と地域①-日本の工業地域-	同上																																																		
9	(特) 工業と地域②-日本(関東・関西地方)の工業立地-	同上																																																		
10	(特) 都市の立地①-ヨーロッパ・アメリカの都市-	同上																																																		
11	(特) 都市の立地②-アジアの都市-	同上																																																		
12	(特) 都市の立地③-日本の都市-	同上																																																		
13	(特) 沖縄の都市空間①-沖縄コナベーション-	同上																																																		
14	(特) 沖縄の都市空間②-先島諸島-	同上																																																		
15	(特) まとめ-地理学と生活空間-	同上																																																		
16																																																				
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 ・講義の中で適宜紹介する。</p>																																																				
<p>学びの手立て</p> <p>・講義中に課題を何回か提示するが、それをレポートにまとめて提出すること。</p>																																																				
<p>評価</p> <p>・講義で提示された課題(レポート)を評価。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>世界の諸地域における地理的特性について、立地論の視点から理解することで、他の社会科学系科目(経済学・社会学・行政学など)の成果と有機的に繋がることことができる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学Ⅱでは、地図とGIS、地理学の歴史、生活文化とグローバル化について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。	メッセージ 新聞、テレビ・ラジオ、ネットの自然環境や経済に関するニュースに関心を持ち、つねにニュース現場の場所を地図で調べる習慣を身につけてもらいたい。
	到達目標 地理的なものの見方、考え方を習得してもらう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	生活空間の拡大と地図の発達 【対面授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	2	地形図の活用の仕方(1) 【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	3	地形図の活用の仕方(2) 【対面授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	4	地理情報システムとリモートセンシング 【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	5	認知地図と時間地理学 【対面授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	6	村落と都市(1) 【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	7	村落と都市(2) 【対面授業】	資料地理の研究、プリントの復習
	8	消費と余暇行動 【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習
9	人口と食糧(1) 【対面授業】	資料地理の研究、プリントの復習	
10	人口と食糧(2) 【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習	
11	交通と通信 【対面授業】	資料地理の研究、プリントの復習	
12	貿易と経済的な結びつき 【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習	
13	国家と民族・文化 【対面授業】	資料地理の研究、プリントの復習	
14	地域開発 【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習	
15	21世紀の地理学ーこれからの地理学ー 【対面授業】	資料地理の研究、プリントの復習	
16	まとめ 【特例授業】	資料地理の研究、プリントの復習	
	テキスト・参考文献・資料など 『新詳 資料地理の研究』、帝国書院 定価980円 『新詳高等地図』、帝国書院 1,575円 授業の中でその都度紹介する。		
	学びの手立て 1. 授業で取り扱った内容の場所を地図帳で確認すること。 2. 板書内容はきちんとノートすること。 3. 私語厳禁。		
	評価 成績は、レポートで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地理学Ⅱ、沖縄の地理
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本国憲法	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本国憲法の主に「人権論」を体系的に解説します。授業を通し、私たちの日々の生活と日本国憲法とが密接な関係にあることを認識し、各自の専攻分野や将来の進路に照らして、憲法問題について考える契機になることを目的とします。</p>	<p>憲法は人権保障と日本の国のかたちを規定する国の最高法規です。特に、憲法制定から70年以上が経ち、「今」の社会における憲法のあり方が広く議論されてきています。この機会に、身近な問題から一緒に考えていきましょう。</p>
	到達目標	
	①憲法の基本的な知識を習得すること、②日本社会に存在する憲法的な問題について、自分なりに説明する力を身につけることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) ガイダンス	シラバス、配布レジュメを読む。
	2	(特) 憲法とは何か①	配布資料・レジュメを読む。
	3	(特) 憲法とは何か②	配布資料・レジュメを読む。
	4	(特) 人権総論①	配布資料・レジュメを読む。
	5	(特) 人権総論②、平等権①	配布資料・レジュメを読む。
	6	(特) 平等権②	配布資料・レジュメを読む。
	7	(特) 平等権③、	配布資料・レジュメを読む。
	8	(特) 思想・良心の自由、信教の自由①	配布資料・レジュメを読む。
	9	(特) 信教の自由②	配布資料・レジュメを読む。
	10	(特) 幸福追求権①	配布資料・レジュメを読む。
	11	(特) 幸福追求権②	配布資料・レジュメを読む。
	12	(特) 幸福追求権③、表現の自由①	配布資料・レジュメを読む。
	13	(特) 表現の自由②	配布資料・レジュメを読む。
14	(特) 表現の自由③、経済的自由権	配布資料・レジュメを読む。	
15	(特) 社会権、講義全体のまとめ	配布資料・レジュメを読む。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト等は指定せず、毎回の講義時にレジュメと、各回に必要な参照資料等を配布いたします。		
	<p>自主学習の助けとなる文献として、参考までにいくつか紹介しておきます。 たとえば、初宿正典編『目で見る憲法【第5版】』（有斐閣、2018年）、 君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法【第3版】』（法律文化社、2017年）、 初宿正典編『いちばんやさしい憲法入門【第5版】』（有斐閣、2017年）など。</p>		
	学びの手立て		
	普段から意識的に新聞・ニュースなどで社会問題に触れておくこと、各回の授業には連続性があるため復習をすること、が望ましいです。		
	評価		
	授業で扱った事項について、基本的な事項を理解して、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します（「レポート」による評価100%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目として「法学」があります。

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本国憲法	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、日本国憲法の主に「人権論」を体系的に解説します。授業を通じて、私たちの日々の生活と日本国憲法とが密接な関係にあることを認識し、各自の専攻分野や将来の進路に照らして、憲法問題について考える契機になることを目的とします。</p>	<p>憲法は人権保障と日本の国のかたちを規定する国の最高法規です。特に、憲法制定から70年以上が経ち、「今」の社会における憲法のあり方が広く議論されている現在、有権者のみなさんにとっても、より密接した存在になるものだと思います。この機会に、身近な問題から一緒に考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本授業では、①憲法の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会において起こる憲法問題を発見し、読み解く力を培うこと、③憲法問題について、論理的に説明する力を身につけること、を目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバス・レジュメを読む。
	2	憲法とは何か①	配布資料・レジュメを読む。
	3	憲法とは何か②	配布資料・レジュメを読む。
	4	人権総論①	配布資料・レジュメを読む。
	5	人権総論②・信教の自由①	配布資料・レジュメを読む。
	6	信教の自由②・思想・良心の自由①	配布資料・レジュメを読む。
	7	思想・良心の自由②・平等権①	配布資料・レジュメを読む。
	8	平等権②	配布資料・レジュメを読む。
	9	平等権③・幸福追求権①	配布資料・レジュメを読む。
	10	幸福追求権②	配布資料・レジュメを読む。
	11	幸福追求権③・表現の自由①	配布資料・レジュメを読む。
	12	表現の自由②	配布資料・レジュメを読む。
	13	経済的自由権①・社会権①	配布資料・レジュメを読む。
	14	表現の自由③・経済的自由権②・社会権②	配布資料・レジュメを読む。
15	社会権③・講義全体のまとめ	配布資料・レジュメを読む。	
16			

テキスト・参考文献・資料など
 テキスト等は指定せず、毎回の講義時に、必要な参照資料・レジュメ等を配布いたします。

自主学習の助けとなる文献として、参考までにいくつか紹介しておきます。
 たとえば、初宿正典編『目で見る憲法【第5版】』（有斐閣、2018年）、
 君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法【第3版】』（法律文化社、2017年）、
 初宿正典編『いちばんやさしい憲法入門【第5版】』（有斐閣、2017年）など。

学びの手立て
 授業内容の理解をしやすいするために、各回のテーマについて予習をすることが望ましいです。また、各回の授業には連続性があるため、復習をして次の授業に臨んでください。

評価
 授業で扱った事項について、基本的な事項を理解して、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します（レポートによる評価100%）。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 関連科目として法学があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、日本国憲法での学習を踏まえて、憲法との関連を意識されながら有効に活用されると良いと思います。

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本国憲法	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、日本国憲法の主に「人権論」を体系的に解説します。授業を通じて、私たちの日々の生活と日本国憲法とが密接な関係にあることを認識し、各自の専攻分野や将来の進路に照らして、憲法問題について考える契機になることを目的とします。</p>	<p>憲法は人権保障と日本の国のかたちを規定する国の最高法規です。特に、憲法制定から70年以上が経ち、「今」の社会における憲法のあり方が広く議論されている現在、有権者のみなさんにとっても、より密接した存在になるものだと思います。この機会に、身近な問題から一緒に考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本授業では、①憲法の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会において起こる憲法問題を発見し、読み解く力を培うこと、③憲法問題について、論理的に説明する力を身につけること、を目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバス・レジュメを読む。
	2	憲法とは何か①	配布資料・レジュメを読む。
	3	憲法とは何か②	配布資料・レジュメを読む。
	4	人権総論①	配布資料・レジュメを読む。
	5	人権総論②・信教の自由①	配布資料・レジュメを読む。
	6	信教の自由②・思想・良心の自由①	配布資料・レジュメを読む。
	7	思想・良心の自由②・平等権①	配布資料・レジュメを読む。
	8	平等権②	配布資料・レジュメを読む。
	9	平等権③・幸福追求権①	配布資料・レジュメを読む。
	10	幸福追求権②	配布資料・レジュメを読む。
	11	幸福追求権③・表現の自由①	配布資料・レジュメを読む。
	12	表現の自由②	配布資料・レジュメを読む。
	13	経済的自由権①・社会権①	配布資料・レジュメを読む。
	14	表現の自由③・経済的自由権②・社会権②	配布資料・レジュメを読む。
15	社会権③・講義全体のまとめ	配布資料・レジュメを読む。	
16			

テキスト・参考文献・資料など
 テキスト等は指定せず、毎回の講義時に、必要な参照資料・レジュメ等を配布いたします。

自主学習の助けとなる文献として、参考までにいくつか紹介しておきます。
 たとえば、初宿正典編『目で見る憲法【第5版】』（有斐閣、2018年）、
 君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法【第3版】』（法律文化社、2017年）、
 初宿正典編『いちばんやさしい憲法入門【第5版】』（有斐閣、2017年）など。

学びの手立て
 授業内容の理解をしやすいするために、各回のテーマについて予習をすることが望ましいです。また、各回の授業には連続性があるため、復習をして次の授業に臨んでください。

評価
 授業で扱った事項について、基本的な事項を理解して、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します（レポートによる評価100%）。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 関連科目として法学があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、日本国憲法での学習を踏まえて、憲法との関連を意識されながら有効に活用されると良いと思います。

※ポリシーとの関連性

ビジネス活動において問われている倫理観とは何か。大学在学中に身につけてもらいたい基本的な知識及び考え方を提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスの倫理 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-親泊 元彦	1年	hcrokinawa@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスにおける倫理とは何か、について学んでいく。昨今の企業の不祥事等がメディアで頻繁に取り上げられているが、その背景にあるものに迫る。更に、これからの働き方や職業観についても議論を深める。</p>	<p>グループ学習も取り入れます。毎回、グループを抽選で決めます。「一期一会」の精神で「メンバーに自分の意見をしっかり伝える」「相手の意見をしっかり聞く」ことを意識的に実践し、相互理解を深めます。</p>
到達目標	<p>1. ビジネスにおける倫理観の本質にアプローチし、自分なりの理解が出来るようになること。 2. 様々な成功事例から、その本質を探り、それらをどのように応用するかを考えること。 3. 企業が求める人材の条件を把握し、「あるべき自分創り」に生かすこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（講義概要、受講の仕方、ゴール設定）	個人目標の設定
	2	ビジネスにおける倫理とは何か	ビジネスにおける倫理観を考える
	3	企業の社会的使命とは	企業の成り立ちと目的を理解する
	4	企業の存在意義とその価値について	企業の社会での存在意義を考える
	5	社会で働くことの意味・意義について	個人の職業観及び倫理観を考える
	6	事例紹介及びその補足・解説 1	事例から、その本質を学ぶ
	7	事例紹介及びその補足・解説 2	同上
8	事例紹介及びその補足・解説 3	同上	
9	企業の経営理念とは	経営理念と理念経営について	
10	理念経営と社会貢献について	企業の社会的価値を考える	
11	個人の価値観と人生理念について	人生における目的について考える	
12	組織の目標と個人の目標について	ワークライフバランスについて	
13	従業員満足（ES）と顧客満足（CS）について	ES > CSの意味することとは	
14	これからの「ビジネス倫理」のありかた	ES > CSの意味することとは	
15	講義のまとめ	これまでの振り返り	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	特に指定はありません。必要に応じて講義の際にプリント・レジュメ等を配布します。		
学びの手立て	<p>毎回講義の始めに、1週間の振り返り（フィードバック）を行います。よって、毎週計画的に過ごすことでフィードバックがスムーズになります。また、1週間のサイクルで繰り返すことで生活のリズムが掴めるようになり、より良い習慣が身に付きます。</p>		
評価	<p>学期末試験（70%）、課題・レポート等（15%）、授業への貢献度（15%）、以上の内容を中心に評価をします。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>個別の質問や相談等に対しては、可能な限り対応します。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

ビジネス活動において問われている倫理観とは何か。大学在学中に身につけてもらいたい基本的な知識及び考え方を提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスの倫理Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-親泊 元彦	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスにおける倫理とは何か、について学んでいく。昨今の企業の不祥事等がメディアで頻繁に取り上げられているが、その背景にあるものに迫る。更に、これからの働き方や職業観についても議論を深める。</p>	<p>グループ学習も取り入れます。毎回、グループを抽選で決めます。「一期一会」の精神で「メンバーに自分の意見をしっかりと伝える」「相手の意見をしっかりと聞く」ことを意識的に実践し、相互理解を深めます。</p>
到達目標	<p>1. ビジネスにおける倫理観の本質にアプローチし、自分なりの理解が出来るようになること。 2. 様々な成功事例から、その本質を探り、それらをどのように応用するかを考えること 3. 企業が求める人材の条件を把握し、「あるべき自分創り」に生かすこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（講義概要、受講の仕方、ゴール設定）	個人目標を設定する
2	ビジネスにおける倫理とは何か	ビジネスにおける倫理観を考える	
3	企業の社会的使命とは	企業の成り立ちと目的を理解する	
4	経営資源と経営計画について	システムとしての企業経営を学ぶ	
5	事例研究及びその補足・解説4	事例から、その本質を学ぶ	
6	事例研究及びその補足・解説5	同上	
7	事例研究及びその補足・解説6	同上	
8	事例研究及びその補足・解説7	同上	
9	事例研究及びその補足・解説8	同上	
10	マーケティングとマネジメント	企業経営の二本柱について学ぶ	
11	企業の経営理念とは	経営哲学と理念経営について学ぶ	
12	企業経営と人材育成について	「人が育つ仕掛けと仕組み」を学ぶ	
13	職業観と人生理念について	働く意味・意義・目的について学ぶ	
14	「組織と個人」の将来展望について	「組織と個人」の可能性を学ぶ	
15	講義のまとめ	これまでの振り返り	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	特に指定はありません。必要に応じて講義の際にプリント・レジュメ等を配布します。		
学びの手立て	<p>毎回講義の始めに、1週間の振り返り（フィードバック）を行います。よって、毎週計画的に過ごすことでフィードバックがスムーズになります。また、1週間のサイクルで繰り返すことで生活のリズムが掴めるようになり、より良い習慣が身に付きます。</p>		
評価	<p>学期末試験（70%）、課題・レポート等（15%）、授業への貢献度（15%）、以上の内容を中心に評価をします。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>個別の質問や相談等に対しては、可能な限り対応します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-栗国 恭子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。または学内E-mail	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	文化人類学（民族学）は世界の民族社会・文化（異文化）を比較研究する学問である。様々な地域・環境で生きる人々の民族文化から多様な「人間の在り方」を考えてみる。自身とは異なる「文化」（慣習や生活スタイル、社会の仕組み、考え方）を知ることで、自身の文化のあり様を知る。	この講義は、はじめて受講される方、また後期に開講される「文化人類学Ⅱ」継続受講する学生でも登録可能です。世界に暮らす人々の多様さと自分自身の文化（生活や価値観など）と比較しながら、豊かな「人間の在り方」興味を持つきっかけにしてください。
到達目標	19世紀の中頃に誕生した「人間を在り方を問う」学問・文化人類学（民族学）の方法論、視点、民族社会・文化を対象にした研究の流れなど（1週から4週）で基本的な学問の特徴を確認し、どのような理論が展開されたのか、現代の民族問題について確認する。自然環境（海や照葉樹林帯）と文化の関りと多様な社会のあり様（トロブリアンと諸島スールー海、中国西南部）、異民族社会を繋ぐ空間認識、食や香り、技術・身体などのテーマを確認する。それぞれの民俗文化・社会は独自性を持ちながらも孤立するものでもない。多民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのように繋がっているのかを理解する。幅広い視野を持つことの必要性や自身の考え・価値を豊かにできるようにする。また、少数派（マイノリティー）への捉え方が相対的に理解することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)文化人類学とはどのような学問か 「文化」概念・方法論・相対的な視野	文献②・③・④・⑤を確認
	2	(特)人種と国家と民族 文化人類学の向き合う社会「民族（文化）」について	同上
	3	(特)現代の〈民族〉問題	文献③・④を確認
	4	(特)文化人類学学説史 約160年間で生まれた理論のその変化	文献①・②・③・④・⑤を確認
	5	(特)海に生きる人々① パプア・ニューギニア クラ交換 マリノフスキーの視点	文献①・④を確認
	6	(特)海に生きる人々② 漂海民 スールー海バジャウの定住化と近代国家観	文献②・③・④を確認
	7	(特)自然環境と文化① 照葉樹林文化（中国南部、西日本、沖縄）について	同上
	8	(特)自然環境と文化② 現代の食文化（アジア・日本、グローバル化、文化評価）	日々の食事の種類・材料を確認
	9	(特)自然環境と文化③ 香りの文化（歴史人類学の視点：丁子・竜涎香・ムスク）	日々の暮らしの香りとは考える
	10	(特)文化と空間・場所① 東アジア・琉球の空間認識（風水・民俗方位ほか）	東アジア文化の空間認識を調べる
	11	(特)文化と空間・場所② 「場所の記憶」東アジアの韓国と沖縄と日本の「空間（王宮）」表象論	近代の沖縄・韓国の歴史を確認
	12	(特)「伝統」文化意識① 「伝統の保護」視点 中国西南部少数民族ナシ族の暮らし（伝統の保護）	中国の少数民族を調べる
	13	(特)造形技術と文化① 金属文化（中国ウイグル族、クバチ）、文化記録の視点	文献②・④を確認
	14	(特)造形技術と文化② 東アジア・琉球の金属文化	沖縄の金属文化を調べる
15	(特)造形技術と文化③ 身体装飾・入れ墨（アイヌ・琉球・台湾・バヌアツ）	文献②・④を確認	
16	テスト	「課題（テスト）の準備」	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布（対面授業不可の状況下ではポータル授業連絡添付）する。</p> <p>＜参考文献＞①綾部恒雄編『文化人類学群像 日本篇外国篇』（アカデミア出版、1988年から）②波平恵美子編『文化人類学』（医学書院、1993）③綾部恒雄編『よくわかる文化人類学』（ミネルヴァ書房、2006年）④山下晋司ほか編『文化人類学キーワード』（有斐閣、1997）⑤大田好信『トランスポジションの思想』（世界思想社、1998年）⑥その他『文化人類学事典』など</p>

学びの手立て	<p>①「履修の心得え」として、以下を注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認を毎回行う（対面授業の不可の際にはポータル授業連絡返信利用）ので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず連絡してください。 ・授業での疑問・質問は積極的にしてください。 <p>②「学びを深めるために」世界の多様な民族文化・歴史の文献・ビジュアル資料及び展示会やドキュメンタリー番組や、映画などに関心を持ち読書・観覧・鑑賞する機会を積極的に増やしてほしいです。例えば周りにいる留学生などとも交流を通しての互いの文化を語るのもいい機会です。</p>
--------	--

評価	<p>「評価方法・割合」期末試験（対面授業不可の際にはポータルを利用）60%、講義感想・質問レポート40% 「評価基準」期末試験においては、世界の民族文化関係の情報理解だけではなく、講義を通して紹介したテーマに関連した文化について、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身の異文化観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記と共に自身のどのように思考を深めたのかについて評価する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「関連科目」多様な民族社会の文化の中から女性（ジェンダー）の文化と関りを取り上げる科目「女性と文化」や「民俗学」、環境・異文化をテーマにした科目をとることで、より多様な人間社会の理解が深まる。</p> <p>（2）次のステージ 異なる民族文化を有する人々に関心を持ち交流して（旅行もおすすめ）、多様な価値観を理解することで自身の文化特徴や課題を深めてほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 博美	1年	受講後、メール等で。	

学びの準備	ねらい 他者（異文化）との出会いから始まる文化人類学という学問を通して、異文化についての理解を深めていくと同時に、合わせ鏡としての自己理解、自己（自文化）の相対化、自己内省できる姿勢を身につけていく。	メッセージ 「文化人類学」という学問を通して、世界の新しい見方（視点）を身につけましょう。「文化」は、意識しないと見えてきません。身の回りにある当たり前の世界を一度括弧にいれて、思考的に俯瞰してみることから、「人間とは何か？」という壮大な問いに一歩近づいてみましょう！
	到達目標 文化人類学という学問の基礎を学び、「文化」や「他者」の存在を意識化できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	指定された文献を読む。
	2	文化人類学とは何か？ 文化とは？	指定された文献を読む。
	3	感染症と人類について	指定された文献を読み、まとめる。
	4	身近な事例を考える	指定された資料を読む。
	5	異文化を捉える方法	参考資料を読む。
	6	人類と言語	参考資料を読む。
	7	人種、民族とエスニシティ	身近な事象を確認する。
	8	人生と時間	参考資料を読む。
	9	「いのち」とは？人生儀礼から考える	参考資料を読む。
	10	人類学と戦争「慰霊の日」を前に	身近な事象を確認する。
	11	人と人のつながり①	参考資料を読む。
	12	人と人のつながり②	身近な事象を確認する。
	13	人と人のつながり③	参考資料を読む。
	14	人類と信仰	参考資料を読み、参考映像鑑賞。
15	医療と文化	参考資料を読む。	
16	ふりかえり（講義全体のまとめ・課題研究）		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にありません。参考文献は講義時に適宜紹介します。必要資料も配付します。 【参考文献】 ①『よくわかる文化人類学〔第2版〕』2010、綾部恒雄他編、ミネルヴァ書房 ②『文化人類学キーワード〔改訂版〕』2008、山下晋司他編、有斐閣 などが手元にあると、随時確認することができ理解を助けます。		
	学びの手立て ①「履修の心構え」 ・他の受講生の妨げとなる行為（居眠り、おしゃべり、スマホいじりなど）厳禁。 ・講義開始後20分を過ぎての遅刻は正当な理由がない限りは欠席扱いとします。 ②「学びを深めるために」 ・テレビのドキュメンタリー番組などを見て興味・見識の幅を広げてください。 ・講義では、高校生まではあまり聞いたことのない概念（用語）が出てきます。新しい世界への扉を開く際には、忍耐が必要になります。参考文献などを開いて理解を深める努力をしましょう。		
	評価 出席確認および、内容理解を確認するためのリアクションペーパー（30%） 中間・期末レポート（70%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「文化人類学Ⅱ」「比較民俗学」「沖縄の民俗」「沖縄の社会」「社会学」などでさらなるステップアップを目指しましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅰ	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前田 一舟	1年	ppt219@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人類が生きる社会をより深く理解するため、多様な文化の構成要素となる言葉、文字、風習、狩猟、採集、農耕、親族、階層、恋愛、結婚、出産、育児、死、神話、信仰、宗教などの関心から他者の考えや価値観へ興味を引き出し、身近な社会的・環境的課題について解決のカギとなるものを模索する。</p>	<p>「自分とは何だろう？」と心のなかで自問自答する学生は文化人類学で取り上げる社会の様相と出会うことで、その自ら獲得した情報をもってコミュニケーションのきっかけとなれるよう担当者も心掛けていく。その学生たちとの対話からさらに学びを深められるよう学生の思考とその行為を促していく。</p>
到達目標	<p>参加者の個性と創造する力を身につけ、自らの興味や課題を発見し、主体と協調性をもちながら、その解決策と社会的責任（社会的貢献、協働、地域貢献）を習得できるよう人類文化の事例より学びを促す。とくに文化人類学の重要な方法である現地・現物・現状を知るフィールドワークについて学びを深める。それらの能力を獲得しながら参加者の平和と共生の視点を探り、かつ異文化コミュニケーションに欠かせない文化相対主義をもって自律と思いやりの考えを豊かにしていく。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明と人類文化との出会い（特）	自主学習①人類とは調べる
	2	学生からみた人類の印象とは？（特）	自主学習②文化とは調べる
	3	学生からみた文化の印象とは？—あなたの五感で覗いてみよう—（特）	自主学習③参考文献を読む
	4	文化とは？—欧米とアジアの映画で異文化を知ってみよう—（特）	自主学習④参考文献を読む
	5	奇妙な風習—先住民族と私たちのファッション—（特）	自主学習⑤類人猿を調べる
	6	なぜ、人類はチンパンジーなどを観察するのか？（特）	自主学習⑥参考文献を読む
	7	文字を手に入れた人びと—脳は常にアップデートする—（特）	自主学習⑦参考文献を読む
	8	現代人は狩猟採集ができるか？（特）	自主学習⑧参考文献を読む
	9	農耕から遠ざかる現代人（特）	自主学習⑨参考文献を読む
	10	グループを作りたがる人類—社会と階層で異文化を知ってみよう—（特）	自主学習⑩結婚と独身を調べる
	11	結婚からみる人類社会—契約の精神—（特）	自主学習⑪多様な家族を調べる
	12	家族と親族をみた文化人類学—孤立と相互扶助の世界—（特）	自主学習⑫参考文献を読む
	13	タテとヨコの関係—企業の家族経営と契約社員—（特）	自主学習⑬参考文献を読む
14	文化人類学がみたチームワークの原理（特）	課題の調査研究①	
15	フィールドワーカーの日記とデザインの思考—JK法で社会スキルを極める—（特）	課題の調査研究②	
16	全体をふりかえり（期末試験）（特）	整理と新たな課題の発見	
テキスト・参考文献・資料など	<p>・毎回プリントを配布する。 ・時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。 ①C.クラックホーン著／外山滋比古ほか訳、『講談社現代新書255 文化人類学の世界』、講談社、1971年。 ②吉野晃監修、『ダメになる人類学』、北樹出版、2020年。 ③宮本常一、『講談社学術文庫 民俗学の旅』、講談社、1993年。</p>		
学びの手立て	<p>【学びの手立て】授業のなかで配布した資料や紹介した情報を復習し、次の自主学習へ取り組むよう心掛ける。また、授業では担当者による一方的な情報提供だけでなく、自主学習及び意見参加型の場を常に求める為、自発的な意見等も要する。 【履修の心得え】授業の進行によっては環境開発に関する日本の最新報道や台風等による休講からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。授業を受講する上での最低限のマナー（携帯電話、遅刻、居眠り、退出、私語）は心得ておくこと。そして、課題等の提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。</p>		
評価	<p>・上記の到達目標を達成する為、授業のなかでその都度記述課題や学習課題を求め、電子メールで提出とする。その評価を以下のとおり設定する。 ・記述課題（50%）、学習課題（40%）、平常点（質問や発言を適宜加点10%）より評価する。 ・出席状況については、できる限り遅刻並びに無断欠席はしないこと。欠席する場合は事前に欠席届を済ませておくこと。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>・関連科目としては「文化人類学Ⅱ」「ボランティア論」「環境開発論」等があげられる。 ・次なるステージとしては受講終了後に独自で取り組みたい興味のあるテーマを設定し、その自主研究を通してCSR（企業社会的責任）とCSV（共通価値の創造）等へ結びつくきっかけを育んでほしい。</p>

科目基本情報	科目名 文化人類学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 -栗国 恭子	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			授業内容の質問などは授業終了後に教室で受け付けます。または学内mail	

学びの準備	ねらい 文化人類学（民族学）は世界の民族社会・文化（異文化）を比較研究する学問である。様々な地域・環境で生きる人々の民族文化から多様な「人間の在り方」を考えてみる。自身とは異なる「文化」（慣習や生活スタイル、社会の仕組み、考え方）を知ることで、自身の文化のあり様を知る。	メッセージ この講義は、前期に開講される「文化人類学Ⅰ」を受講していない学生でも登録可能です。初心者に必要な「文化人類学とはどのような学問か」入門概論（前期と重複内容1～4週）も行います。前期から継続受講学生と共に安心して受講してください
	到達目標 19世紀の中頃に誕生した「人間を在り方を問う」学問・文化人類学（民族学）の方法論、視点、民族社会・文化を対象にした研究の流れなど（1週から4週）で基本的な学問の特徴を確認し、どのような理論が展開されたのか、現代の民族問題について確認する。宗教研究における必要な用語を確認し、民族社会、現代社会との関りを、多彩な研究の切り口を確認する。現代の文化人類学が取り組む課題「映像・記録」「観光」「開発」と少数民族社会・文化変化を通して文化人類学の役割を確認する。それぞれの民俗文化・社会は独自性を持ちながらも孤立するものでもない。多民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのように繋がっているのかを理解する。また、少数派（マイノリティー）への捉え方が相対的に理解することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 文化人類学とはどのような学問か 「文化」概念・方法論・相対的な視野	文献②・③・④・⑤を確認
	2	(特) 人種と国家と民族 文化人類学の向き合う社会「民族（文化）」について	同上
	3	(特) 現代の「民族」問題	文献③・④を確認
	4	(特) 文化人類学説史 約170年間で生まれた理論のその変化	文献①・②・③・④・⑤を確認
	5	(特) 文化人類学と文化表象 民族博物館の資料と展示 植民地主義と異文化研究	文献②・④を確認
	6	(特) 宗教人類学① 「宗教」概念、アニミズム、	文献②・③・④を確認
	7	(特) 宗教人類学②社会変動と宗教活動、民族宗教と社会（「カルト」概念変化、宗教の政治利用）	同上
	8	(特) 宗教人類学③ 文化象徴と他界観 空飛ぶものと心意	象徴人類学・ギャーツを調べる
	9	(特) 感性の人類学① 色彩と心意（東アジア・琉球）	色彩と文化について考える
	10	(特) 感性の人類学① 「映像人類学」文化を記録する際のテーマ性（少数民族、暮らし）	民族文化の映像作品を調べる
	11	(特) 宗教人類学⑥ レヴィストロースのクリスマス分析構造分析 米国と異文化社会、文化政策	文献①・④を確認
	12	(特) 観光人類学① 「伝統」の概念、「伝統の創造」バリ・沖縄	文献③・④を確認
	13	(特) 観光人類学② 「文化は誰のものか」中国チベット社会と観光化の波	同上
	14	(特) 開発人類学① 開発（環境）問題と先住民社会の変化 ブラジル・カヤポ	同上
	15	(特) 開発人類学② 開発（環境）問題と先住（少数）民族 ブラジル・イゾラド	同上、ブラジルについて調べる
16	テスト	[課題（テスト）の準備]	

実践	テキスト・参考文献・資料など 特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料（対面授業不可の状況下ではポータル授業連絡添付）は各自配布する。 ＜参考文献＞①綾部恒雄編『文化人類学群像 日本篇外国篇』（アカデミア出版、1988年から）②波平恵美子編『文化人類学』（医学書院、1993）③綾部恒雄編『よくわかる文化人類学』（ミネルヴァ書房、2006年）④山下晋司ほか編『文化人類学キーワード』（有斐閣、1997）⑤大田好信『トランスポジションの思想』（世界思想社、1998年）⑥その他『文化人類学事典』など
----	--

学びの手立て	①「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・出欠確認を毎回行う（遠隔講義を予定しているため出席はポータル授業連絡返信メッセージで判断）ので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、連絡すること。 ・授業での疑問・質問は積極的にしてください。 ②「学びを深めるために」世界の多様な民族文化・歴史の文献・ビジュアル資料及び展示会やドキュメンタリー番組や、映画などに関心を持ち読書・観覧・鑑賞する機会を積極的に増やしてほしいです。例えば周りにいる留学生などとも交流を通しての互いの文化を語るのもいい機会です。
--------	---

評価	「評価方法・割合」期末試験（遠隔授業での指示提出、ポータルレポートシステム利用）60%、講義感想質問レポート40% 「評価基準」期末試験においては、世界の民族文化関係の情報理解だけではなく、講義を通して紹介したテーマに関連した文化について、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身の異文化観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記と共に自身のどのように思考を深めたのかについて評価する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 多様な民族社会の文化の中から女性（ジェンダー）の文化と関りを取り上げる科目「女性と文化」や「民俗学」、環境・異文化をテーマにした科目をとることで、より多様な人間社会の理解が深まる。 （2）次のステージ 異なる民族文化を有する人々に関心を持ち交流して（旅もおすすめです）、多様な価値観を理解することで自身の文化特徴や課題を深めてほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 世界にある多様な異文化（他者）を知ることで、文化の多様性、人間の普遍性を学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 博美	1年	学内メールにて。	

学びの準備	ねらい 特定のトピックを通して、文化人類学という学問について理解する。どのような切り口で世界を眺めていくことができるのか？これまでの「当たり前」を揺さぶりながら、文化の多様性、人間の普遍性について知見を深めていく。	メッセージ 好奇心を持ち、新しいことを始めることに躊躇しないでください。文化人類学という学問では、他者（異文化、自分以外の人たち）との出会いを通して、豊饒な意味の世界を旅することができます。
	到達目標 文化人類学という学問を通して、世界に存在する多様で豊かな異文化の存在を知る。そのことにより、自分自身の立ち位置を相対化し、多種多様な他者（異文化、自分以外の人）とのかかわり方についても学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	【特】オリエンテーション	指定された文献を読む。
	2	文化人類学とはなにか？ 【対面授業①予定】	指定された文献を読む。
	3	文化人類学の特徴【対面授業②予定】	図書館で関連する文献を探す。
	4	【特】文化人類学の歴史概略	指定された文献を読む。
	5	【特】人類と言語	指定された文献を読む。
	6	【特】信仰・信心・宗教①	指定された文献を読む。
	7	【特】信仰・信心・宗教②	身近な事象と比較する。
	8	【特】老いをめぐる人類学	身近な事象と比較する。
	9	【特】病いをめぐる人類学	身近な事象と比較する。
	10	【特】死の周辺の人類学	身近な事象と比較する。
	11	【特】「地域」の資源化	指定された文献を読む。
	12	贈り物をめぐる人類学 【対面授業③予定】	指定された文献を読む。
	13	【特】博物館と人類学	指定された文献を読む。
	14	【特】人類学と戦争	身近な事象と比較する。
	15	【特】講義全体のまとめ・ふりかえり	図書館で関連する文献を探す。
	16	期末試験【対面式を予定】	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特にありません。参考文献は講義時に適宜紹介します。必要資料も配付・紹介していきます。 【参考文献】 ①『よくわかる文化人類学〔第2版〕』2010、綾部恒雄他編、ミネルヴァ書房 ②『文化人類学キーワード〔改訂版〕』2008、山下晋司他編、有斐閣 などが手元にあると、随時確認することができ理解を助けます。		
	学びの手立て		
	①「履修の心構え」 ・他の受講生の妨げとなる行為（居眠り、おしゃべり、スマホいじりなど）厳禁。 ・講義開始後20分を過ぎての遅刻は正当な理由がない限りは欠席扱いとします。 ②「学びを深めるために」 ・テレビのドキュメンタリー番組などを見て広い世界への興味・見識の幅を広げてください。 ・自分の身近な世界（日常生活）にも興味・関心のまなざしを向けましょう。 ・講義では、高校生の頃までは、あまり聞いたことのない概念（用語）が出てきます。新しい世界への扉を開く際には、忍耐が必要になります。参考文献などを開いて理解を深める努力をしましょう。		
	評価		
	出席確認および内容理解を確認するための授業ごとのリアクションペーパー【30%】 中間試験（レポート）・期末試験（対面式を予定）【70%】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次に「民俗学」「比較民俗学」「社会学」などの隣接科目を受講することで、文化・社会についてのさらなる理解へとステップアップできます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅱ	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前田 一舟	1年	ptt219@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人類が生きる社会をより深く理解するため、多様な文化の構成要素となる言葉、文字、風習、狩猟、採集、農耕、親族、階層、恋愛、結婚、出産、育児、死、神話、信仰、宗教などの関心から他者の考えや価値観へ興味を引き出し、身近な社会的・環境的課題について解決のカギとなるものを模索する。</p>	<p>「自分とは何だろう？」と心のなかで自問自答する学生は文化人類学で取り上げる社会の様相と出会うことで、その自ら獲得した情報をもってコミュニケーションのきっかけとなれるよう担当者も心掛けていく。その学生たちとの対話からさらに学びを深められるよう学生の思考とその行為を促していく。</p>
到達目標	<p>参加者の個性と創造する力を身につけ、自らの興味や課題を発見し、主体と協調性をもちながら、その解決策と社会的責任（社会的貢献、協働、地域貢献）を習得できるよう人類文化の事例より学びを促す。とくに文化人類学の重要な方法である現地・現物・現状を知るフィールドワークについて学びを深める。それらの能力を獲得しながら参加者の平和と共生の視点を探り、かつ異文化コミュニケーションに欠かせない文化相対主義をもって自律と思いやりの考えを豊かにしていく。「文化人類学Ⅰ」で習得した学生は最新情報をもって、さらなる深い学びを設定し、その科目を受講していない学生でも参加しやすい授業計画とする。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明と人類文化との出会いー体験談の分かち合いー（特）	自主学習①モニュメントを調べる
	2	学生からみた人類と文化とは？ーあなたのモニュメントを問うー（特）	自主学習②参考文献を読む
	3	文化の型とは？ーアメリカ人がみた恩と義とわびさびの文化ー（特）	自主学習③料理を調べる
	4	文化の構造とは？ー先住民族の料理で考えるー（特）	自主学習④貨幣価値を調べる
	5	文化の機能とは？ー物質と精神でみる貨幣の世界ー（特）	自主学習⑤芸術を調べる
	6	人類社会の芸術文化（特）	自主学習⑥戦争を調べる
	7	なぜ、人類は争いと虐殺を繰り返すのか？（特）	自主学習⑦古代文明を調べる
	8	失われた文明社会の人びと（特）	自主学習⑧格差を調べる
9	人類の格差社会（特）	自主学習⑨死後の世界を調べる	
10	墓をもつ人、墓をもたない人の世界ー死でみる人類社会ー（特）	自主学習⑩神話を調べる	
11	ジョセフとジョージの神話の世界（特）	自主学習⑪漫画を読む	
12	『アフリカの神話的世界』から『精霊の守り人』へ（特）	自主学習⑫宗教を調べる	
13	宗教をもつ人間社会（特）	自主学習⑬参考文献を読む	
14	日本人を探した鳥居龍三の人類学（特）	課題の調査研究	
15	「琉球の祖先について」から学ぶ伊波普猷の歴史人類学（特）	課題の調査研究	
16	全体のふりかえり（末期試験）（特）	整理と新たな課題の発見	
テキスト・参考文献・資料など	<p>・ 毎回プリントを配布する。 ・ 時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。 ①C.クラックホーン著／外山滋比古ほか訳、『講談社現代新書255 文化人類学の世界』、講談社、1971年。 ②吉野晃監修、『ダメになる人類学』、北樹出版、2020年。 ③宮本常一、『講談社学術文庫 民俗学の旅』、講談社、1993年。</p>		
学びの手立て	<p>【学びの手立て】授業のなかで配布した資料や紹介した情報を復習し、次の自主学習へ取り組むよう心掛ける。また、授業では担当者による一方的な情報提供だけでなく、自主学習及び意見参加型の場を常に求める為、自発的な意見等も要する。 【履修の心得え】授業の進行によっては環境開発に関する日本の最新報道や台風等による休講からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。授業を受講する上での最低限のマナー（携帯電話、遅刻、居眠り、退出、私語）は心得ておくこと。また、オンラインの場合はできる限り、顔の表示もお願いする。そして、課題等の提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。</p>		
評価	<p>・ 上記の到達目標を達成する為、授業のなかでその都度記述課題や学習課題を求め、電子メールで提出とする。その評価を以下のとおり設定する。 ・ 記述課題（50%）、学習課題（40%）、平常点（質問や発言を適宜加点10%）より評価する。 ・ 出席状況については、できる限り遅刻並びに無断欠席はしないこと。欠席する場合は事前に欠席届を済ませておくこと。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連科目としては「文化人類学Ⅰ」「ボランティア論」「環境開発論」「博物館教育論」等があげられる。 ・ 次なるステージとしては受講終了後に独自で取り組みたい興味のあるテーマを設定し、その自主研究を通してCSR（企業社会的責任）とCSV（共通価値の創造）等へ結びつくきっかけを育んでほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代社会に存在する法について、各テーマに沿って解説していきます。普段は意識しないかもしれませんが、実は日常生活の中にあふれている法的な問題を発見し、どのような法がどのように関わっているのかを分析し、自分なりに考える契機にすることを目的とします。	時間の制約上、扱う分野・テーマを限定することにはなりますが、受講生の興味・関心も考慮しながら、できるかぎり身近な法的問題をとりあげ進めて行きます。各自の将来の進路の必要に応じて、法的な問題を一緒に考えていければと思います。
到達目標	①法学について基本的な知識を習得すること、②授業において興味・関心をもった法的なテーマ・問題について、論理的に説明する力を身につけることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)ガイダンス	シラバス、配布レジュメを読む。
	2	(特)法とは何か	配布資料・レジュメを読む。
	3	(特)法と裁判	配布資料・レジュメを読む。
	4	(特)裁判員制度①	配布資料・レジュメを読む。
	5	(特)裁判員制度②	配布資料・レジュメを読む。
	6	(特)死刑制度①	配布資料・レジュメを読む。
	7	(特)死刑制度②	配布資料・レジュメを読む。
	8	(特)刑法入門①	配布資料・レジュメを読む。
	9	(特)刑法入門②	配布資料・レジュメを読む。
	10	(特)憲法入門①	配布資料・レジュメを読む。
	11	(特)憲法入門②	配布資料・レジュメを読む。
	12	(特)民法入門①	配布資料・レジュメを読む。
	13	(特)民法入門②	配布資料・レジュメを読む。
14	(特)民法入門③	配布資料・レジュメを読む。	
15	(特)講義全体のまとめ、補足の回	配布資料・レジュメを読む。	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト等は指定せず、毎回の講義時にレジュメと、各回に必要な参照資料等を配布いたします。</p> <p>自主学習の助けとなる文献として、参考までにいくつか紹介しておきます。 たとえば、松井茂記ほか『はじめての法律学 ― HとJの物語【第6版】』（有斐閣、2020年）、 大林啓吾ほか『ケースで学ぶ法学ナビ』（みらい、2018年）、 池田真朗ほか『法の世界へ【第6版】』（有斐閣、2014年）など。</p>		
学びの手立て	<p>普段から意識的に新聞・ニュースなどで社会問題に触れておくこと、各回の授業には連続性があるため復習をすること、が望ましいです。</p>		
評価	<p>授業で扱った事項について、基本的な事項を理解し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します(「レポート」による評価100%)。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として「日本国憲法」があります。また、各自の興味・関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、法学で学んだことと関連付けてみると、より有意義な学習ができるのではないかと考えています。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代社会に存在する法について、各テーマに沿って解説していきます。普段は意識しないかもしれませんが、実は日常生活の中にあふれている法的な問題を発見し、どのような法がどのように関わっているのかを分析し、自分なりに考える契機にすることを目的とします。	時間の制約上、扱う分野・テーマを限定することにはなりますが、受講生の興味・関心も考慮しながら、できるかぎり身近な法的問題をとりあげ進めていきます。各自の将来の進路の必要に応じて、法的な問題を一緒に考えていければと思います。
到達目標	①法学について基本的な知識を習得すること、②授業において興味・関心をもった法的なテーマ・問題について、論理的に説明する力を身につけることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特)ガイダンス	シラバス、配布レジュメを読む。
	2	(特)法とは何か	配布資料・レジュメを読む。
	3	(特)法と裁判	配布資料・レジュメを読む。
	4	(特)裁判員制度①	配布資料・レジュメを読む。
	5	(特)裁判員制度②	配布資料・レジュメを読む。
	6	(特)死刑制度①	配布資料・レジュメを読む。
	7	(特)死刑制度②	配布資料・レジュメを読む。
	8	(特)刑法入門①	配布資料・レジュメを読む。
	9	(特)刑法入門②	配布資料・レジュメを読む。
	10	(特)憲法入門①	配布資料・レジュメを読む。
	11	(特)憲法入門②	配布資料・レジュメを読む。
	12	(特)民法入門①	配布資料・レジュメを読む。
	13	(特)民法入門②	配布資料・レジュメを読む。
14	(特)民法入門③	配布資料・レジュメを読む。	
15	(特)講義全体のまとめ、補足の回	配布資料・レジュメを読む	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト等は指定せず、毎回の講義時にレジュメと、各回に必要な参照資料等を配布いたします。</p> <p>自主学習の助けとなる文献として、参考までにいくつか紹介しておきます。 たとえば、松井茂記ほか『はじめての法律学 ― HとJの物語【第6版】』（有斐閣、2020年）、 大林啓吾ほか『ケースで学ぶ法学ナビ』（みらい、2018年）、 池田真朗ほか『法の世界へ【第6版】』（有斐閣、2014年）など。</p>		
学びの手立て	<p>普段から意識的に新聞・ニュースなどで社会問題に触れておくこと、各回の授業には連続性があるため復習をすること、が望ましいです。</p>		
評価	<p>授業で扱った事項について、基本的な事項を理解し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します(「レポート」による評価100%)。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として「日本国憲法」があります。また、各自の興味・関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、法学で学んだことと関連付けてみると、より有意義な学習ができるのではないかと考えています。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業は、現代社会に存在する法について、各テーマに沿って解説していきます。普段は意識しないかもしれませんが、実は日常生活の中にあふれている法的な問題を発見し、どのような法がどのように関わっているのかを分析し、自分なりに考えるきっかけにすることを目的とします。	メッセージ 授業回数の制約上、多くの分野・テーマを網羅的に扱うことはできませんが、受講生の方の興味・関心も考慮しながら、できるかぎり身近な法的問題を取りあげ、分かりやすく解説したいと思います。各自の将来の進路の必要に応じて、法的な問題を一緒に考えていければと思います。
	到達目標 本授業では、①法律の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会にある法的問題について、読み解く力を培うこと、③授業において興味・関心をもったテーマや法的問題について、論理的に説明する力を身につけること、を目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバス、配布レジュメを読む。
	2	裁判員制度①	配布資料・レジュメを読む。
	3	裁判員制度②	配布資料・レジュメを読む。
	4	裁判員制度③・死刑制度①	配布資料・レジュメを読む。
	5	死刑制度②	配布資料・レジュメを読む。
	6	日本の裁判制度①	配布資料・レジュメを読む。
	7	日本の裁判制度②・憲法入門①・刑法入門①	配布資料・レジュメを読む。
	8	刑法入門②	配布資料・レジュメを読む。
9	刑法入門③	配布資料・レジュメを読む。	
10	検察審査会制度・憲法入門②	配布資料・レジュメを読む。	
11	憲法入門③・刑法入門④	配布資料・レジュメを読む。	
12	民法入門①	配布資料・レジュメを読む。	
13	民法入門②	配布資料・レジュメを読む。	
14	民法入門③	配布資料・レジュメを読む。	
15	民法入門④・講義全体のまとめ	配布資料・レジュメを読む。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など テキスト等は指定せず、毎回の講義時に必要な参照資料・レジュメ等を配布いたします。 自主学習の助けとなる文献として、参考までにいくつか紹介しておきます。 たとえば、松井茂記ほか『はじめての法律学 ― HとJの物語【第6版】』（有斐閣、2020年）、 大林啓吾ほか『ケースで学ぶ法学ナビ』（みらい、2018年）、 池田真朗ほか『法の世界へ【第6版】』（有斐閣、2014年）など。		
	学びの手立て 普段から意識して、新聞・ニュースなどで社会問題に触れておくようにすることが望ましいです。 また、各回の講義には繋がりががありますので、学習効果を高めるために予習・復習をおすすめいたします。		
	評価 授業で扱った事項について、基本的な事項を理解し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します(レポートによる評価100%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として日本国憲法があります。また、各自の興味・関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、法学で学んだことと関連付けてみると、より有意義な学習ができるのではないかと考えています。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ボランティア論	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住 直広	1年	ptt514@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ボランティアは、自発性と地域の社会問題・環境問題の発見やその解決にあります。その活動は自ら取り組みたい気持ちから出発し、その体験を通して地域の問題を解決する手法です。とりわけ、地域社会に根ざした相互扶助やNPO活動等より学んでいきます。</p>	<p>地域社会の課題から取り組んだ事例を紹介しつつ、学生の興味と参加をもとに学んでいきます。この授業をきっかけに少しでも地域の社会問題、NPO活動に興味を持ち、実践していただきたいと思えます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の相互扶助の基礎をもとに地域社会の課題へ目をむけるよう取り組みます。 ・地域社会の課題を自ら調べ、わかりやすく説明できるようにします。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスをよく読むこと
	2	NPO、ボランティアとは	レジュメをよく読むこと
	3	社会の発展	同上
	4	自己とは	同上
	5	社会のしくみ	同上
	6	市民社会とは	同上
	7	メディアリテラシー	同上
8	リサーチリテラシー	同上	
9	地域を知る方法	同上	
10	地域を変える方法①	同上	
11	地域を変える方法②	同上	
12	地域を支える経済的しくみ①	同上	
13	地域を支える経済的しくみ②	同上	
14	地域に参加する技法（参加型グループ学習）①	同上	
15	地域に参加する技法（参加型グループ学習）②	同上	
16	テスト	同上	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】・授業中ではその都度レジュメや資料等を配布する。適宜指示する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>①秦辰也、『ボランティアの考え方（岩波ジュニア新書）』、岩波書店、1999年。</p> <p>②金子郁容、『ボランティア—もうひとつの情報社会（岩波新書）』、岩波書店、1992年。</p> <p>③西條剛央、『人を助けるすんごい仕組み』、ダイヤモンド社、2012年。</p>		
学びの手立て	<p>私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。</p>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の到達目標を達成する為、授業のなかでその都度記述課題や学習課題を求める。その評価を以下のとおり設定する。 ・テストまたはレポート（50%）、平常点（50%）より総合的に評価する。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目としては、「NPO入門」、「協働社会論」、「生涯学習概論」、「環境文化論」、「社会福祉入門Ⅰ・Ⅱ」、博物館教育論」等があげられる。 ・次なるステージとしては、受講終了後に独自で取り組みたい興味のあるテーマを設定し、その社会体験を取り組んでほしい。とりわけ興味ある分野のテーマを関連づけ、地域社会、NPOと大学で習得してほしい。
-------	--